婦人運動

12月號

第7巻 第10號

職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）　昭和四年十一月二十八日印刷納本　同四年十二月一日發行　第七巻第十號

婦人運動 第七巻第十號（十二月號目次）

わが一年の回顧

「緊縮」に暮れる昭和四年は、婦人運動の途上——婦人運動に限りません、すべての社會運動にとつてさうでありましたが——多難な年でありました。金解禁を目睫の間に控えて不景氣はこれからどこまで進むや測り知れない狀勢にあります。この狀勢の下にわれ〳〵の運動をみるとき、來るべき年の見通しにも、重苦しい憂鬱と不安を禁じがたいのであります。

然し乍ら、わが國の婦人運動も、ともかくも十四五年を閲して今日の段階にまで達しました。運動の全體樣を覽れば未だちぐはぐな、非常に不揃ひの憾みがなくもないのですが、婦人勞働運動も、參政權運動も、教育運動も、母性及兒童の保護運動も、それ〳〵に運動の當事者を次第に增しつゝ、全國的に共鳴者、應援支持者を各自が獲得しづゝ急速な發展過程を辿りてゐます。同時に、凡ゆる意味で年一年と、婦人の生活の上に、その社會意識の上に著しい變化と進步の跡をみぬわけにゆかぬ私たちは、この推移の上に立つ全體としての婦人運動が、既に重要な轉換期に迫つてゐることを思はずにゐられません。

さき頃濱口緊縮首相に婦人が呼びかけられて、政府の緊縮政策の徹底のためには國民の半數を占める婦人の協力にまつこと多しと、おだてられたとき、それに感激して直ちに呼應して無反省に動き出した婦人團體も尠くありませんでしたが、然し、また一方、多くの自覺ある婦人は——ほんとうに婦人性に自覺めた、婦人の生活の現在について、政治上にも、法律上にも、社會上にも、半人分以下にしか扱はれてゐぬのを明らかな眼で自分自身で省みることの出來た

婦人たちは、徒らな盲動沙汰には出ませんでした。「單なるお手傳には終りますまい。民政黨政府の利用にまかせますまい。この時こそ婦人の當然の權利を大いに要求しませう」といふ叫びが、當時かなり有力に行はれたことを、心ある人は見逃さなかつた筈です。そして多數婦人の關心は消費組合運動に溢れて流れ込んだのでした。一方に、國民の半數を占める婦人としての當然の公民權を要求すると同時に、他方、家庭の主たる婦人の生活に一番で直接當面な消費經濟問題をこの緊縮機會を利用して婦人の手でもつと合理化しやう。能率的にしやう、新時代に適應せしめてゆかうといふ意圖が、こゝにはつきりと動いて來たのであります。

同時に見のがすことが出來ぬ傾向として、今日、職業婦人社會に高まりつゝある生活意識をあげなくてはなりません。一部職業婦人の裡に、すでに勃々として動き初めた職業婦人意識、働く者の權利を追究してやまぬ明確な生活意識であります。

職業を、單なるお嫁入までの腰掛けとみなへ、職業婦人が、資本主義社會の下積みとしていつまで、あの機械的で無味單調な補助勤務に――それも非常に薄給な――押しつぶされて昏睡をつゞけるでせう？　今まで殆んど、有力な代辯者と指導者を持たなかつた職業婦人が、いよ〳〵自らの力で組織をもち、その要求を公然と叫んで鬪ひ進む日も遠くないでありませう。

此の、家庭婦人の消費組合の運動と、職業婦人運動は、未だ最近の動きにすぎませんが、その內包する運動主體からみて主要な社會的役割を帶びたものと云はねばなりません。わが職業婦人社の八年越しの努力は實にこの二つの問題のために外ならなかつたのですが、今日、やうやくにして運動の本流に乘出した、といふ感じが深いのであります。（『婦人運動』第七卷の結びをつけるにあたり、（むめお記す）



座食者の氣持から生産者の氣持へ

富士辰馬

（一）彫刻の規格化

先頃の讀賣に素巖といふ人が「私は職人です。帝展の彫刻屋さんも矢つ張り職人です」といふ書出しで、帝展の彫刻を批評して居られた。

その言ふ所に依ると、帝展に陳列された彫刻はどれも同じやうなものである、變つたのが少しもない、誰も彼も前に特選を取つた彫刻家の作品を模倣する、男や女のモデルを寫生して、それにいろんな題をつけたに過ぎないといふことである。これは彫刻の形象に關する批評であるが、更にそのサイズにも言及して、作品の大きさが同一であることを嗤ひ、家具や本箱やたんすにさへも大小があるのに、況や彫刻が「寸法を揃へて何のとくがありますか」と詰問して居られた。

私はこの批評を讀んで、批評された作品に深い興味を感ずると共に、批評した「職人」の態度にも明白にイデオロギー上の位置を發見して、多大の感銘に打たれた。

前世代の尺度に依ると、藝術品は最も多量に獨自性と個人性を持つてゐなければならない筈である。それなのに藝術品中の藝術品である彫刻が、その獨自性と個人性を喪失して、どれもこれも同じ様になり、變つたものが少しもなくなり、題が違つてゐるだけでその形象が同一となり、而もそのサイズが電球や電車のカアと同様に同一となつたのでは、藝術家

を以て任ずる者が憤懣に堪えないに相違ない。

だが事實は、素巌氏が指摘されたやうに、藝術の殿堂にゐ並ぶ百餘の彫刻が、電燈や電車と同樣、全くその形象とサイズを一にして來たのである。

爭はれぬものである。

今日は産業のどんな部門を見ても、そこには生産の大量化と規格化が非常な勢ひで進行して居り、この傾向に適應しない企業はどんなに跪いても壓倒されて行く。數量を多くし、形態を少くする。これが生産界の趨勢である。この趨勢は、それがどんなに厭はしくとも、言葉や繪畫や彫刻の簡單化を促さないではゐないのである。各人が各樣に自分の好きな形象とサイズを造つてゐた手勞働の時代には、それに對應して、その藝術品も各人の顏が異なる如く、千偏が千律であつたのであるが、今日は規格化した機械の時代である。規格化した機械は人間のために時間と勞力とを節約しながら、千偏が一律の生産物を製造する。これは厭が應でも藝術品に反映しないではゐない。從つて本年の彫刻に見られた如く、百人が百人の彫刻品が同じやうなものになつて來たのである。

藝術品の單調化。この單調化には手勞働の時代に於ける藝術品の複調に馴れ來つた者の堪え得る處でない。そこにかういふ人達の不滿が發生するのである。これに堪え切れない者には、かういふ人達と共に、自ら生産の大量化と規格化を遂行する資本家達がある。彼等は自ら經營する生産の單調に堪え切れない。その倦怠な單調は彼等の氣持を痺らせる。それを避けるために彼等は藝術品の複調を、獨自性を、個人性を熱求する。これは彼等の本能である。彼等の多くが經濟上の動機に制約されない骨董品に走るのは自ら規格化した生産の砂漠から逃れたいからである。

彼等は、日常の倦怠な單調から逃れるために、このやうな骨董品や個人化した藝術品を追求する。ザラにあるものを斥けて滅多にないものを追求する。さもなければ珍奇な別莊を建てるか、見知らぬ土地に旅行するかする。

序でだが、アメリカの何億長者が各國に觀光して、各國の貿易に『見えぬ輸出』の項目を加へつゝあるのは、アメリカがイギリスのやうにクラシックな國柄でなく、從つて、最高度に規格化した生産の單調から受ける堪え難い印象を紛はすための骨董品や手勞働の時代に於ける多樣な藝術品が自國にないからでもある。

大量化した生産からはもはや個性化した藝術や詩は生れない。だが機械や騒音や把手や油や農具から遠く離れて、單に消費することをしか知らない人達は、まつたく同型になつた生産物の單調さに堪え切れないで、凡ての藝術家からその形式や實質や體驗の傳達法やに於て極端に獨自性のある、極端に個人性のある作品を要求する。ブル系の藝術家が個人性や獨自性を强調するのはこの注文に應じやうがためである。

讀賣に出た素畝氏の彫刻に對する批評が私に興味を與へたのは右のやうな事を考へさせたからである。右のやうな見地から見ると、帝展にその作品を陳列した百餘の彫刻家はその作品がもはや有閑者のお氣に召さないことを知らなければなるまい。でもこれは決して心配すべきことでない。少數の有閑者に嫌はれても、新しい大衆の要求を滿たす作品を創造しさへすれば、その前途は無際限に展開されるであらうからである。

（二）生産者の氣持へ

次に小說界に於ても同じやうな現象が觀察される。殊にブロ派の作品には、そこではテーマの選擇が恐ろしく規格化して來た。爭議を取扱つたもの、留置場に關するもの、農村や漁場や工場や礦山に於ける搾取の網目を巨細に描出したもの。そんなものが多くなつた。

かういふ傾向に對して或る批評家はオリヂナリテイが無くなつたとか、社會學の對象としては面白いが創作としては面白くないとかと、けなしてゐるが、これも決して排斥すべきことではないと思ふ。そしてこのやうな作品の單調化に不滿足を感ずる者は等しく遊んで喰つてゐる家主や何かと同じ階層に屬するものゝイデオロギーである。

實際に仕事の仲間と肩を連ねつゝ旋盤や把手やテーブルに就いてゐる者の眼から見れば、イデオロギー上の生産物である小說が單調化したとて何の苦にもならない。よしんばその單調化に多少の倦怠を感じたとて、やがて量が質に轉化して、素晴らしいものが誕生することを知つてゐるからである。いや、既に素晴らしいものが誕生してブル派の作家を狼狽させつゝある。

かの身邊派や心境派は今や歴史が汽關車の速力で前進し始めた事に驚いて、歴史がもつと緩漫な荷馬車の速力で動いてゐた時代を――物質上の生活がもつと不動であつた時代を回

想しつゝ、自己に逃避し、自己の掘下げに救ひを求めてゐた。併し自己への逃避や自己の掘下げは今や滅び行くゐ喰ひ者の藝術として犬も喰はなくなつて仕舞つた。如何にプロ派の作品が單調化したと雖も、その單調化には將來を載すべき基礎があつて、ゐ喰ひ者の萎れた身邊や心境とは較ぶべくもない。

一般に彫刻の作品や小說のテーマが規格化するのは、前に述べた如く、物質上の生產が規格化した結果であつて、まつたく自然の勢ひである。だからこの規格化に嫌惡を感じて、何か獨特なもの、何か變つたものを求めるのは、生產から遠く離れた座食者の氣持であつて、決してプロレタリアの視點に近づいてゐるものではない。生產から獨立した思考の產物。そんなものは時代の試驗に及第しつこがない。

實際に勞働の要具を握つてゐる者には頭の勞働と筋肉の勞働に差別がなくなる。だから規格化した機械に接近してゐる者の藝術品がテーマを同じうしたからとて何の不思議もない。それ故にこれを嫌惡する者はプロの見地から去つた者と言はなければならない。

（三）商賣上の嗅覺

東朝に「不壞の白珠」が連載されてゐる時、どの知人に會つても「莫迦に面白い、うまいもんだね」と三嘆してゐた。その知人は、「不壞の白珠」を愛讀してゐた知人は何れも生粹のサラリーマンである。私はそこに菊池氏の眞價を發見した。

サラリーマンはインテリゲンチヤである。だがサラリーマンとインテリゲンチヤは、社會の中間層であることに違いはないが、私達に全く別箇の人々を想像させる。サラリーマンといへば、何だか階級上の意識に無關心な人々であり、インテリゲンチヤといへば、思想上に深い關心を持つた人々であるやうに思はれる。

この分類に立つて見ると「不壞の白珠」は決してインテリゲンチヤの三嘆を買つたとは言へない。「不壞の白珠」がその粘つこい蜘蛛の網で包み捉へたのはサラリーマンの大衆である。

「不壞の白珠」を除外にしても、菊池氏の書く小說にはサラリーマンの嗜好を十二分に滿足させる要素が漲つてゐる。單

に小說と言はず、氏の編輯する雜誌にはサラリーマンの欲する「面白さ」が溢れてゐる。このサラリーマンを狙つた處に菊池氏の藝術上と商賣上の鋭い嗅覺がある。この嗅覺が菊池氏を今日の成功に連れ來つたのである。

處で菊池氏の狙つたサラリーマンの中には多分に婦人のサラリーマンがある。近代の社會に於ては勞働者と女工と男のサラリーマンと婦人のサラリーマンとが非常に增加しつゝあるが、その中で誰が最も迅速に增加するかといへば、婦人のサラリーマンであり、次にテンポの速いのが男のサラリーマンである。

婦人のサラリーマンが迅速に增加する。この傾向を嗅ぎ取つて、その收入を期待して、それに適應する作品を逸早く供給し始めた所に菊池氏の鋭い感覺がある。成る程、菊池氏の小說は若い主婦の大衆にも受けるかも知れない。だが菊池氏は、主婦の大衆が、御亭主の失業や減俸に因つて、段々に家庭の文化費目を縮小されなければならぬ事を知つてゐるから、寧ろ自分に獨立の收入源を有し、そしてその數が迅速に增大する婦人のサラリーマンを目あてとし、その要求と嗜好の變化に熱心な注意を拂ひつゝ、自分の小說を生產してゐるのである。恐るべき嗅覺！

而もその嗅覺はちゃんと事實や數字に適應してゐるのである。ウオイチンスキーといふドイツの學者が調査した所に依ると、ドイツでは一九〇七年から一九二五年に至るまでに男のサラリーマンが百十九萬三千百人を、婦人のサラリーマンが七十萬六千六百人を增加したが、婦人の方はその增加が遙かに速く、一九〇七年には全サラリーマン數の一六、七％に過ぎなかつたものが、一九二五年には二六、八％を占めるやうになつた。

郵便、電信、電話、ラヂオ、敎育、保健、劇場、キネマの發達はサラリーマンの勞働を非常に必要とする。だからサラリーマンの、就中、婦人のサラリーマンの增加は現代の顯著な特殊性である。この特殊性はイギリスやアメリカでも同樣で、他の勞働に從事する婦人の比率が、或は減少し或は保合の狀態にあるにも拘らず、サラリーマンの比率は迅速に增大しつゝある。

日本には詳しい統計がないので、このやうな比率が判らないが、決して例外をなすものではない。そこを菊池氏は狙つてゐるのである。（以下四五頁へつゞく）

減俸問題の輪廓・投影

服部龜三郎



一

高等文官及び武官・判任文官・待遇官吏の俸給年額千二百圓又は月額百圓を超ゆるものは減額の割合に幾段かの累進率を設けるが平均一割を減額し、殖民地海外等に勤める官吏軍人の在勤俸にも適當の整理減額を行ふ（昭和五年一月一日より施行）

これが痛烈な「世論の趨向に鑑み」遂に「取りやむること」となつた所謂減俸案の骨子です。はじめ大藏省で作成された草案には（一）或期限を附して減俸するといふ案。（二）强制貯金で官吏の俸給の何割かを貯蓄せしむるといふ案もありました。（一）は勝參與官の（二）は河田次官の案でありますが、結局井上藏相自ら起草した一割切下案が十月十五日の閣議で決定され、突如として其聲明が發表されたのです。その發表は實に拔き打ち的でした。首相及び閣僚の多數は寧ろ突如たる發表を國民が喝采するであらうと考へたらしいのです。そして此案が必ず國民の共鳴を得るであらうと十六日の朝まで固く信じてゐたのでした。

處が、各階級から殆ど一致して捲起つた彼の非難攻擊です。殊に當面の官吏――しかも嚴正なるべき司法部が急先鋒となつて反對の氣勢を擧ぐるに至つては、政府としては狼狽せざるを得なかつたでせう。俄然、事は重大な政治問題化したのであります。司法官の反對運動に就ては後に述べます。先づ政府の減俸決定の理由とした處と之に反對した代表的の議論とを再吟味してみませう。

二

濱口首相の名によつて發表された減俸聲明書に據ると、

(A)政府は昭和四年度の實行豫算に於て既に相當巨額の節約を行つたが五年度豫算についても出來る限りの緊縮を計ると同時に官吏の俸給に對しても亦減額を行ふのやむを得ざるに至つた。といふのであります。

減俸の一つの、或は第一の理由は歳出費目の節減を圖るにあつたのです。減俸によつてどれだけ節減し得る見込みであつたかと云へば、大藏省側の計算に依ると昭和四年度一般會計の俸給費總額は一億七千九百萬圓で、この内減俸の目標となつた俸給月額百圓以上の判任・高等官の俸給費は約七千萬圓で凡そ其一割約七百萬圓及びこの外在勤俸において約百萬圓計八百萬圓であります。

昭和五年度の一般會計豫算は此減俸案を撤回した後、十一月九日の閣議で決定しました。四年度に比し思ひ切つて一億六千萬圓の節約繰延べを斷行した點は非常な苦心が覗れますが、その豫算面に義務教育費國庫負擔の增額一千萬圓といふ

ものが新規に計上されてをります。之は現內閣の十大政綱の內に含まれてゐるもので減俸決定の動機に右の增額の財源を捻出せんとした意圖があつたことは略覗はれるのであります。義務教育費の國庫負擔は社會政策的見地に基くものであります。その實行が現在の緊縮財政の下に於て果して急を要する問題か否かは暫く措くとしても、その社會政策を一方に行ふに當つて、一方に於ては極めて非社會政策的な官吏の減俸を行はんとしたのは決して上乘な政策とは云へないでせう。

× × ×

官吏の俸給を一割減額することは結果に於ては官吏の所得に對して一割の增税を課するのに等しいものです。大多數の官吏が經濟的に如何に余裕のない階級であるかは後にも述べる通りです。政府は何故に更に擔税力のある階級に向つて增税を敢行しないのでせう。——例へば資本利子税の税率(現在は百分ノ二で昭和四年度の豫算に據れば其歳入千五百八十二萬圓)を百分の一だけ上げても八百萬圓位は合理的に生み出すことは出來るのです。斯のやうに、金解禁に因つて寧ろ恩惠を蒙るべき金融資本家や公債所有者等の階級を措いて俸

給生活者を犠牲にしようとした點が大に非難されたのでした。また、豫算の緊縮を爲さんとするのに陸軍費の節約、行政整理を何故に先決せぬかといふことも烈しく加へられた非難でありました。

(B)次に減俸の理由とされたものは物價と俸給との關係です。政府の聲明する所は「大戰後の物價騰貴に伴ひ大正九年に平均七割の増俸を行つたが最近物價は漸落の傾向を示してゐるから一割の切下を行ふ」といふのです。

物價が漸落の傾向を示しつゝあることは大體事實であります――減俸聲明のあつた翌日、日本銀行の發表した十月分の東京小賣物價指數が一八〇・二三すなはち前月に比し一分四厘方の急騰を示したのは實に皮肉でしたが、大勢は大正九年を峠として漸落してゐます――併しながら之を官吏の俸給と對比するときは未だ下落の結果をその生活費の上に反映する程度には達してゐません。

生活費に直接關係のある小賣物價指數を點検すると食料品の如きは戰前に比し何れも十二割乃至三十割の高位に居り、燃料、家賃の如きもなほ二倍以上の騰貴です。

×　×

金解禁後に於ては輸入品の市價は爲替相場が四十五弗見當の時に比し一割方の低下を來すものと豫想されますが、その爲めに國産日用品までが總て一割も安く成らうとは考へられません。之等が物價と俸給との關係について輿論と政府の見解との異る點です。

また減俸點を俸給月額百圓以上に置いた點も大に非難されました。月額百圓といふ限界は所得税の免税點が年所得額千二百圓であるのを大凡の目安としたものと思はれるが、これさへも不當に低いといふのが定論と成つてゐるのです。

切りつめし生計に耐へて言はねども
病めば蓄のなき日を經るに(今井邦子)

月收百圓乃至二百圓程度の家計の如何に切りつめたものであるかは、あの問題の當時新聞紙上に現れた細君達の打明話の類を聞くまでもなく、昭和二年に政府自ら行つた内閣統計局の家計調査がよく之を證してゐることを關係諸君も識つて居る筈です。

×　×

(C)聲明書に謂ふ所のも一つの減俸理由は、現下の國情止む

を得ず政府自ら實踐躬行の範を國民に垂れるといふのでした。

現下の國情が緊縮の必要に迫られてゐる事實は之を認めます。さればこそ金解禁と國民經濟の立直しは大多數の國民の共鳴を得てゐるのです。けれども緊縮を僅かに貧乏線を超ゆるか超へぬ階級の生活費にまで立入つて强要するに至つては國民の大多數は反對せざるを得なかつたのです。

範を國民に垂れるといふ考へ方は如何にも民政黨の傳統的な思想です。斯く考へることに眞面さがあつたことは疑ひませんが、それは昔、財政的に行詰つた諸侯がよく自分の家臣の祿を删つたのと同じ行き方です。封建思想であります。一九二六年に佛蘭西のポアンカレー内閣が財政困難に直面しつゝも官吏の增俸を斷行して執務能率を高め金解禁問題の解決等に好結果を招いたのとは全く正反對の企であります。高い賃銀を拂ふことに因つて非常な能率を擧げてゐるフオードの經營法などと對照して寔に非効果的な政策であるといふ非難が盛んでありました。

× ×

一種の俸給生活者に過ぎない官吏を、自分達と同列に爲政者の立場へ置いて範を國民に垂れしめようとした政府は、更に進んで減俸を民業の俸給生活者、賃銀勞働者にも及すべく共經營者に慫慂する意思であつたことを井上藏相は言明してゐます。減配減資を行ふ前に先づ勞働階級を犧牲にする。——これらの餘りにも舊式資本主義的な行き方に對しては無產派のみならず各方面から痛烈な攻擊を放たれました。

官吏の減俸は農村の一部分などに於ては寧ろ歡迎した者が無いでもありません。また減俸は苦しいが國民經濟の立直しのためには耐忍ばねばならぬ、工夫次第に依つては家庭經濟に於て尙緊縮が可能であると說いた論者もありました。然し大勢は——樞密院・貴族院・在野諸政黨・學界・實業界・殆ど各階級各方面を擧ての反對でありました。その反對運動のなかで最も注目されたのは司法官の俸給水平運動でした。

三

東京地方、區裁判所の全檢事の名を以て十月十六日法相に傳達した決議の内容は——

一、減俸は不當であるから撤回されたい。止むを得ずば司法官に對しては行政官より減俸率を低下するやう除外例を設

けられ度い。

二、それともこの際司法官の平均俸給を行政官と同率に引上げ然る後引下げをして貰ひ度い。

右の(二)は即ち司法官の俸給平遇運動であります。從來司法官の年俸は行政官の平均三千四百六十圓に對し三千百圓といふ差別的待遇を受けてゐた爲め毎年豫算閣議の問題と成り昭和五年度豫算に於ても司法官優遇費は相當認められるものと期待してゐたのに突然各省と一齊に引下げるのは不當であるといふのです。

十七日には判檢事側及び本省側の意向を取纏め全司法部として前述の(一)は暫く留保して(二)の俸給水平運動を以て進むことになりました。この司法部の決議をはじめ各省の空氣・輿論の趨勢を看て政府は緩和策を講ずることに成つたのでありますが、檢事側の意向は甚だ强硬で優遇案に甘んぜず根本的に減俸反對を說へるに到り全國檢事局に反對期成の電報を發しなどし、事態はどこ迄進展するか、重大な危機に臨んだのでしたが結局政府の撤回聲明によつて一と先づ問題は影を隱した形に成つたのです。檢事の反對運動とは別箇に判事側からはまた法律上の根據から反對論が起つたのでした。「法律上判事に對しては減俸は出來ない」といふ主張です。裁判所構成法第七十三條に據れば

　判事は刑法の宣告又は懲戒處分に因るに非ざれば其意に反して轉官轉居停職免職又は減俸せらるゝことなし。

とありますが、この法律論も朝野から可成注目されましたが其解釋に付ては尙異說があるやうです。

× ×

減俸問題を遶つて各所で說かれた物價・勞銀・能率の關係に就ては舊い經濟觀念に囚はれてゐた人々は大に發明する所があつたでせう。濱口首相に撤回の決意を爲さしめるに最も有力な進言をした人は滿鐵總裁で首相の同鄕の先輩たる仙石貢老であつたと傳へられますが、仙石老が彼の老齡で新しい經濟論をよく咀嚼してゐることは敬服すべき識見と云はねばなりますまい。時代は不斷に非常に迅いテンポで動いてゐます。社會經濟の事象に就てはその變化に對應すべく新しい考へ方がどしどし展開されてゆきます。日に新に、日に又新にと工夫精進する人のみがよく此の時代の激流に正しく棹すことができるのです。

印度國民運動回顧

ラス・ビハリ・ボース

世界人類の六分の一の人口と、ロシアを除いた全ヨーロッパと同樣な面積と、しかも哲學に於いて宗教に於いて科學に於いて東洋文明の源泉をなすところの印度。それは今如何なる立場に置かれてゐるか、更にそれは如何なる方向に動きつゝあるか、これは何人も知らなければならない問題である。

印度が初めて英國に依つて其の獨立權を奪はれたのは西暦一七五七年である。しかしながら當時の英國を代表して印度の支配に當つた東印度會社は僅にカルカッタ地方のみを占領し、全印度が英國の支配下に立つに至つたのはそれから百年後卽ち一八五七年である。長き執拗なる印度征服、それは英國の歷史家に依れば、英國は武力を以て印度を征服したのでなく僞造と僞證と、いつはりとに依つて征服したと言はれてゐる。英國は武力に依つて優越した文化を有する印度を征服することが出來なかつた。彼等は常に變らずマキアヴェリズムの權謀譎詐を以て其の侵略の手を動かした。それは所謂外交の勝利であり、「虛言術」の勝利であつた。之が印度を經略するために百年を要した所以である。

當時の印度は武力と經濟力とに於いては、相當に優れてゐた。然し如何なる意味に於いても外交術に乏しかつたのである。今日に於いては外交なる言葉は決して惡い意味に解されてはゐない。しかしそれは道德的な意味に於いては、東西を通じて惡い意味に解される。それは一言にして言へば「僞り」であり、外交の技術に熟練することは謂はゞ僞りが上達したことである。印度の滅亡は此の僞りに達し得なかつた爲とも云へ得るであらう。此の「虛言術」が英國をして、經濟的にも軍事的にも、非常に無力な境涯から、絶大の寶庫印度を獲得するに至つたのである。實に今日大英國の中心點印度は、所謂外交術の賜物であつた。

英國はまた此の絕大の寶庫印度を手に入れて、之を世界のために善用するのではなく、多く軍事的、政治的目的のために、その財力、人力、位置等々を濫用し來つたのである。それは印度に對しては三億二千萬の生存權を奪ふことに依つて自己の勢力を扶植しつゝあるのである。更に英國は、印度の人力印度の財力、印度の戰略的位置を濫用したばかりでなく無法極まる法律を以て一時世界にその優秀を謳はれた印度の工業を窒息せしめてしまつた。東は南洋から西はスペーンまで航海してゐた印度人所有の船舶と造船所とは奪はれた。人口の六割が教育せられてゐたのに今日に於いては三億[illegible]千萬のうち僅々千八百萬に過ぎざる狀態になつた。婦人に於いては一億五千五百萬のうち僅かに五百八十萬(卽ち一分五厘)のみが文字を知るものである。

加之、英國の誤れる經濟政策により、飢饉が絕えず襲來する。英國の政府の數字によれば僅に一八七六年から一九〇〇年迄に、二千六百萬の人が飢饉のために死亡してゐる。印度人の平均收入は極めて低く一年僅に四〇ルピーであり、日本の貨幣三十圓に當つてゐる。死亡率は極めて高く一〇〇〇人に對して三十二名に達し、平均生存年齡は二十三歲と六ケ月になつてゐる。かゝる犧牲に於いて英國は世界を威嚇する富强國となり、印度は單なる隷屬者の位置に何時までも餘儀なく立たされてゐる。

しかしながら如何に微力なる隷屬とは云へ壓迫が極度に達すれば、そこに相應な反抗が起らねば已まない。印度は微力ではあつたが英國の無殘な仕打に對して反抗し初めた。

それは一八五七年からであつた。印度獨立戰爭が卽ちそれである。一八八五年に印度人の政治的の中心機關として印度國民會議が設立された。爾後國民會議は每年十二月に開かれて、翌年の政治的プロを決定しそれに依つて行動する機關となつた。最初此の會議に參加した人は少數であつたが徐々に多數となり自治權の獲得のために熱心なる主張が續けられて來たが英國政府は何等之を省る所がなかつた。

一九〇五年日露戰爭の結果、弱小國と思はれて來た日本が露國を破つてアジア人のために氣を吐いたのを初めとして、アフリカに於けるボール戰爭に當りわづかなボーア人が英國軍を惱ました等のことに依り、更に印度及アフガニスタンの國境に住ひ各種族の征服に英國も夥しき財力、兵力を失つた等のことに依り、印度人にとつて白人恐るゝに足らずの自

覺が徐々に强められ、印度のみならず全アジアの被壓迫民族は、新らしき希望を取戻すことが出來たのである。かくしてアジア復活運動は進展し、印度國民會議に參加するものも非常に增加して、其の内容に於いても生ぬるい決議案の通過にのみ滿足しないやうになり、直接行動に訴える有樣となつたが、英國政府の之に臨む態度は、壓制と彈壓以外の何物でもなかつたのである。

英國の壓制は頗る熾烈を極めた。印度人の言論の自由は奪はれ、政治結社は禁止せられ多數の青年は投獄された。印度の青年には公然と運動し得る總ての道を奪はれたので、遂に秘密結社の運動となり政府の壓制に對して暴力を以て對抗した。彼等は爆彈を作り、武器彈藥を密輸入し、秘密出版を行つた。之に對して政府は嚴罰と、殺倅とを以て應酬した。一九〇五年――一九一四年の印度の歷史は、暗殺と負傷と投獄と刑殺との連續であつたと云ふことが云へる。一九一二年印度總督ハールディング卿は印度青年の爆彈に依つて重傷を受け、附添の二人が死亡した事件があつた。

歐洲大戰當時、イギリスは戰時中、獨立運動を止めて英國を援けるならば戰後、自治を與ふべきことを聲明した。之がために、印度は百二十五萬の兵士と、一億圓の軍費とを支辨し、數十億圓の食糧を戰線に送つたのである。しかも戰後に至つて此約束は何等履行される所なく、獨立運動を彈壓するために謂ふ所のローラット法なるものを公布し、印度人の生命、財產、自由を擅に警察官、行政官の自由に任せてしまつた。玆に司法官は無力となり、戒嚴令下同樣の狀態が到來したのである。之がために從來英國に好意を寄せてゐたガンジー氏其他の人々まで公然英國に叛いて立つに至つたのである。

此の法令に反對の演說會が全國に開かれた。北部のアムリタサール市に於ても五千名の男女が參加して演說會の最中、ダアヤル將軍の率ゆる軍隊は之を背後から發砲して五百名の死者と千五百名の負傷者とを作つた。同樣なことが全印度の各市に於いて行はれ、武裝せざる群集は至る所で銃口の前に斃された。此の虐殺事件は、印度政府に依つて約六ケ月秘密にされてゐたが、後、本國議會の問題となり、ダアヤル將軍は遂に免職させられたが、英國宣教師其他は、この虐殺行爲は、英帝國の爲を計つたものであると稱し之に二萬磅の醵金を募つたのである。これを見れば一般英國人の印度に對する考方

が、おしはかられるのである。しかしながら此事件は、印度國民運動に油を注ぎかけた。印度政府は此の大勢を恐れて一九一九年印度自治權擴張案を提供して初めて玆に議會制度の形骸が立てられた。しかし選擧權を有する印度人は二パーセント以下に止まり、官選議員の多數を占める上院に對して下院に民選議員を多く擁してゐたとは云へ、印度總督は其決議を擅に否決し、或は一旦議會に否決されたものを施行することが出來、又事實遂行してゐたのである。議會は要するに討論會以上の何物でもなかつたのである。

昨年（一九二八）印度國民會議は左の議案を通過した。

即ち一九二九年十二月三十一日迄に加奈陀、濠洲と同樣なる自治を印度に與へないならば。

英國と徹底した非協同運動を初める。

租税を拒否する

法廷に問題を提出しない。

子供を英國の學校に入れない。

非暴行的に群集的反抗運動を開始すべきことを決議したのである。其後印度に對する政府の壓制は甚だしくなり、新聞、言論、結社の自由は殆んど奪はれ、或は家宅捜索、逮捕、監禁投獄等は毎日のこととなつた。先月の如きも、ラホールと云ふ所にて十六名の印度青年が反英の陰謀を企てたといふ理由で公判に附せられたが、彼等は獄中に於いて官憲の虐待に對抗して絶食同盟を行つてゐる。二十二歳の青年は、六十五日絶食の後死亡した。

かうして形勢の展開は英國政府をして、焦慮せしめつゝある。十月三十一日　印度總督アルウイン卿は印度に對して加奈陀、濠洲同樣の自治を與ふべきことを聲明した。これは印度獨立運動の猛烈なる展開を裏書きするものである。然るに其の後、英本國に於いて印度主務大臣が、自治權を與ふる期間に就いて何らの、説明をもしてゐないところを觀れば、それが十年後に施されるものであるか、百年後であるか、とにかく急速に行ふものでないことは事實であつて、從來屢々經驗した所から、此の度の聲明も、單なる沈壓の爲の僞瞞政策に終るであらう豫想は、全印度の不滿を買ひつゝある。

印度を領してゐることに依つて、富强を保ち、印度を利用して、アヂヤ諸國の獨立の自由を奪ひ、自己の勢力を扶植してゐるところの英帝國が、完全なる自治權を、印度に與へ得ないのはあまりにも明白である。と同時に、印度の、あらゆる自由は、印度の民衆自身が組織的運動の根强い抗爭に依つて取り戻さなければならない所以も此處にある。

世界の展望

太平洋問題に就いて

太平洋問題調査會

最近太平洋問題調査會が、その何回目かの總會を奈良で開いた。集つた顔ぶれに於いて、取扱かつた問題に於いて、頗る各方面の注意をひき、此の會合が單に、太平洋に面した一社交機關であるに係らず、異常なる刺戟と、興味とを與へて去つたといふことが出來るであらう。然らばその異常なる刺戟とは何か？　それは云ふまでもなく、太平洋問題に於ける重大な暗礁が現にわれわれの前に存在してゐると云ふことである。其の會合は單に形式から云へば、極めて和氣藹々の中に閉されたかも知れない。その内容から見ても、決議することなく、結論を與へることのない同會が、何等そこに不安を挾む餘地がなかつたかも知れない。しかし事實の眞の動きを見遁さない人々は、誰人も、太平洋の風波決して靜かならず、しかも吼え猛る巨浪は、此の沿岸の小舟にまで、たゞならざる動揺を見せてゐることを觀察したであらう。

軍縮會議が何回開かれても、不戰條約が調印せられても、濃厚な不安は常に世界の政局から姿を消したことがない。國際平和の叫びは盛々高くして、戰爭準備の運動は愈々熾烈を極めるのが、いつはらない世界の大勢である。我々は此の間にあつて、少くとも日本を中心とする極東の諸問題、換言すれば、日本を卷き込まうとする新戰爭の危機に就て、充分周到に觀察し、之が對策を怠つてはならない。今現に太平洋問題が、異常なる興味を喚起してゐるとき、われわれはその本質とさまざまな焦點とを充分に理解し、誤らざる進路を發見しなければならない。

太平洋問題とは何か

しからば太平洋問題とは何か、私は先づ其の意味から説明しなければならない。何となれば太平洋問題とは少くとも、今日具體的な内容を有つた言葉として頗る不適當なまた餘り

に廣汎な言葉であるからだ。それは、一面太平洋に面してゐる國家間の問題を總稱して言はれることであり、また極東諸國の問題に限つてのみ言はれる場合もある。しかも考へやうに依つては、文化的諸問題をも包括せられる場合がある。私は先づその內容を限つて、假に、太平洋の安穩を妨ぐる諸問題として其の考察を進めたいと思ふ。

惟ふに、太平洋の安穩を妨げる問題は、決して一二に止まらない。支那を中心とする問題だけでも十指を屈するに足るであらう。しかし、具さにそれ等の問題を觀察し、其の核心に觸れるならば、それは恐らく左の三四の問題に歸着せしむることが出來るであらう。それは、一、日米對立。二、英露對立。三、之を樞軸として、それを繞る民族解放運動、帝國主義問題等でなければならない。私は先づ順序として日米對立の問題から這入りたいと思ふ。

日米對立

日米對立の具體的な表れは、之を前にしては所謂移民問題があり、後にしては、支那に於ける市場獲得及び投資の競爭がある。移民問題がその經濟的意味に於いては、決して重要な問題ではなかつた。（それは一年間の移民總數が移民禁止以前に於いてたか〳〵九千乃至一萬以上に出なかつた點から見ても、さう斷定することが出來る）にも係らずそれが非常な反響を生むに至つたのは、太平洋に於ける日米勢力關係の上に一の明確なる尺度を設定したためであつた。合衆國に於ける日本移民の禁止は、事實、合衆國の軍事的、政治的優越を證據立てる國際的尺度として重要視されたためであつた。之は決して單なる體面問題、乃至感情問題として形づけらるべきものでない。しかしそれは、本質に於いて兩國の衝突にまで導くべき重大性は、持たなかつたのである。

日米對立の尖銳化せんとする局面は、その支那政策に於いて之を見ることが出來る。合衆國の支那政策の根抵は從來機會均等、門戶開放、領土保全等の主張であつた。合衆國は南北アメリカの覇權を握り、殊に其の近接せるメキシコ、ニカラグア等に於ける自己の優越的地位は、所謂モンロー主義を以て之を保障し、自國の勢力圏外に於ては機會均等主義により、他の强國をして獨占させることなく英露日佛等によつて豫め獲得された大利益關係の中に自分も割込んで行くと

云ふのがその傳統的政策であつた。其の頗る我儘な、身勝手な主張を我々は敢て玆に檢討しようと思はない。しかしながらこの政策の前途は、特に日本に對して衝突の危險を持つものであることを一應指摘しなければならない。

玆に所謂滿洲問題がある。南滿洲は、面積二百二十方哩の關東租借地の存在により、また延長七百哩の南滿洲に依り、或は二十萬の在留日本人に依り、投資は十四億と稱せられ日本は之れを見るに半領土的見解を以てしてゐるのであるが、これは所謂機會均等主義と必然に相容れないものであり、不可避な紛爭を惹起す虞れのあるものである。加之、最近に於ける合衆國の發展は、今や漸く機會均等主義の消極的主張から積極的な經濟侵略主義に轉化せんとしつゝある。

合衆國の對支貿易は、最近頗る激增の勢を示し、一九二七年度對支貿易は三億五千萬弗に達し實に支那貿易總額の四分の一に當り、偉大なる消費力の權化としての支那市場は、除々に合衆國勢力圈内のものたらんとしてゐる。また最近合衆國の投資力は、既に富源の分割を終つたヨーロッパ及び、中南米を去つて東洋に向はんとする趨勢にあり、支那政權の安定強化と伴つて尨大なる支那投資を見るだらうことは今日明確に認識されるところである。これらの經濟的支那侵略が、軍事的、政治的方面に重心を有する日本の對支政策と根本的に相容れないものであり、支那に於ける日本の勢力と對抗し之を驅逐するだらうことは、容易に想像し得るところである。南京政府に依る鐵道回收政策の如きは、此の合衆國の經濟政策を大いに賴みとするものであり、それが、やがて對日關係の上で如何に表現されるだらうかは、今や刮目して見守らねばならぬことである。

英露對立

帝政ロシアが、其の南下政策に依つて常にイギリスの勢力を脅し、近東に於いて、中部アジアに於いて、また極東に於いて、常にイギリスの帝國的統一の障碍となり來つたことは周知の事實であるが、之と異つた意味で新らしい英露對立が所在に展開されてゐることは注目を要する。

ソビエットロシアの、世界革命運動の途上に於いて、先づ第一に抗爭の對手國たる歷史的役目を負うたものがイギリスであつた。それはイギリスの經濟的地理的關係が之を決定させた。

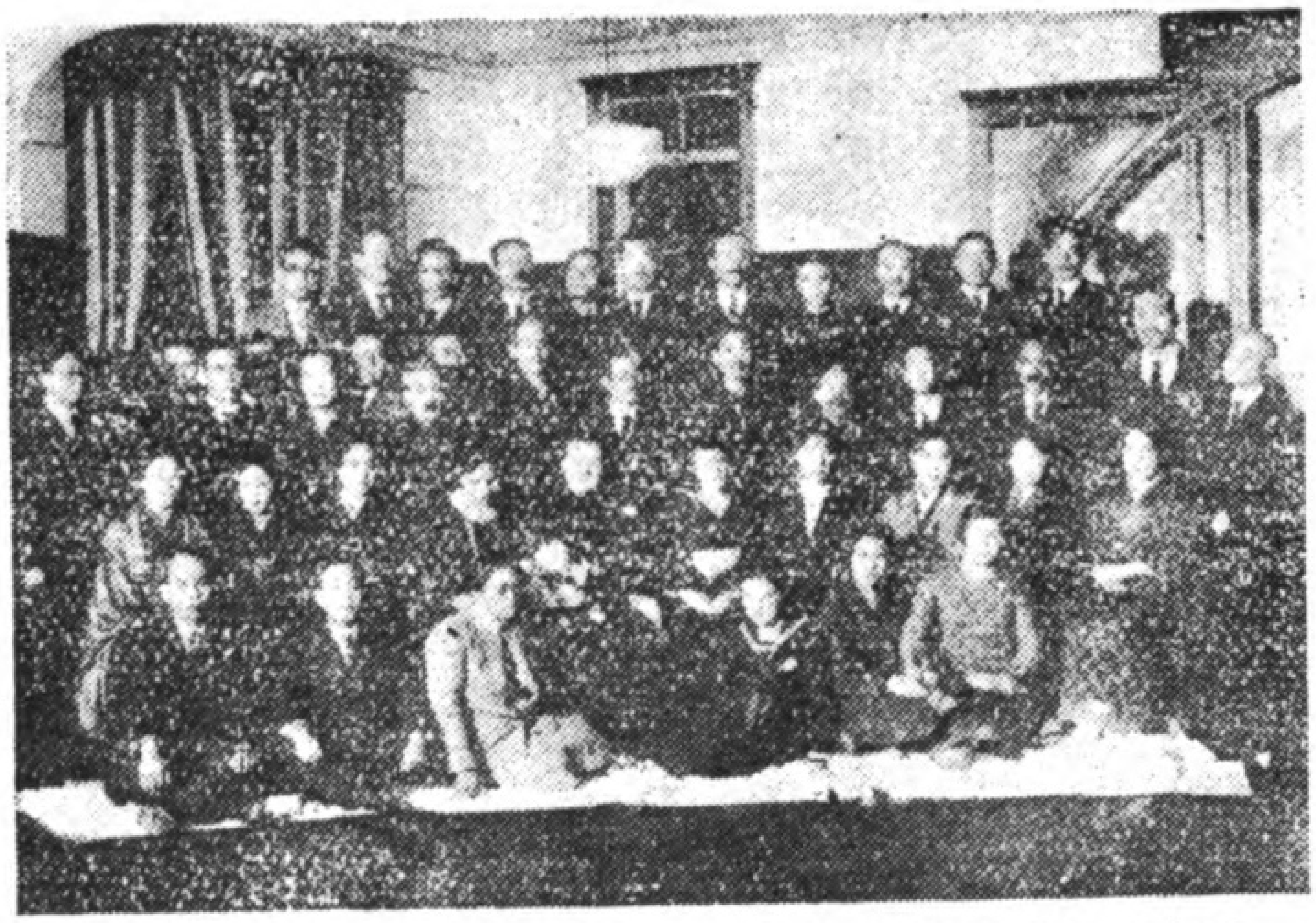
先づ西方に於いて、トランスコーカシア共和國の樹立に於いて、またペルシャ、アフガニスタンの對英離反に於いて、トルキスタン、ボハラ等の併合、蒙古より西藏に亘るロシア勢力の扶植に於いて、陰然イギリスの印度支配を脅かし、その東方政策を破壞せんとして更に革命支那と結び、打倒帝國主義の壁を强めてイギリスの支那に於ける位置を一擧にして掃蕩せんとし、イギリスと結んだ蔣介石派の勢力に依つて一敗地に塗れたことは未だ記憶に新なる所である。

之に對してイギリスはどんな政策を以て報ひたかと云ふに、假に問題を支那に限るならば、イギリスは最初强硬に、しかも直接に、反英運動と對抗した。しかもそれらの對抗が成功するに從つて支那に於ける自國の經濟的利益は反對に萎縮への道を辿らざるを得なかつた。對支貿易の夥しき減少、香港商工業の萎縮衰退等はイギリス政府をして次のやうな政策をとらせるに到つた。一九二七年の漢口租界回收問題に當つて、イギリスは、其の組織する所の行政機關工部局を解散して租界行政權を支那に引渡したのを手初めに、九江租界の引渡、關稅自主權の容認、治外法權撤廢の豫約等々一面徹底的に所謂軟化の道を辿るとともに、一面、南京政府と接近し　對露協同戰線を張り、ロシアの支那政策を徹底的に紛碎せんとしたのであつた。我々はその役に於て展開せられたる支那の反露政策、共產黨に對するクーデター、東支鐵道回收等の目まぐるしき轉回の中に、イギリス外交政策の勝利を見ることが出來るのである。

しかしながら此等の政策的起伏は、決して終局な形ではない。或は支那革命の進展に伴つて、或はインド自治、中部アジア解放の運動に伴つて英露對立は益々深刻化せられ尖銳化せられんとしてゐる。東支鐵道回收問題の如きも複雜な支那內政問題にからんで益々解決から遠ざかり新らしき國際的危機を孕むに至つてゐる。英露日米の四部合唱は、不調和なる音律を以て今や如何なる樂譜を歌ふであらうか。我々は耳を聳てゝその合唱を聞かなければならない。(以下次號)

×　×　×

會合のたより



前二列の左より五人目トルスタヤ女史同三人目奥氏

文豪トルストイの末女で、翁生前にはすぐれた秘書役としてこれを援けてその死後は翁の遺業を繼いで學校や圖書館の

二重の奴隷になるな

堀江かど江

婦人が職業を求め自分の經濟的基礎を固めるといふことは、その過去に於て、經濟的に男性に寄食してゐたところから奴隷的地位に立たされたそのことのため自覺から出發してゐるのであるが、この頃私共がしば／＼見受けるに、さうした職業婦人に寄生してゐる男性の多くがある。このやうな狀態は在來の家庭生活からいへば一般的にいつてこれ迄の逆の形である。この狀態が生活難から來てゐることはいふまでもないが、その一面に於ては、職業婦人が男性を勞働市場から驅逐したことに原因すると同時に、自然の理法によつて、勞働市場から驅逐された男性の一部が驅逐した女性に寄食するといふ現象を呈するのである。それだけであれば、單に、過去の地位が轉倒されたといふに過ぎないのであるけれども、しかし、そこには女性にとつて悲しむべき傳統性がある。つまり、經濟的には男性

仕事に携つて來たアレキサンドラ・トルスタヤ嬢が遙々「父トルストイを最もよく理解してゐる人の澤山にあるなつかしの」日本を訪れてみえた。

わが國の文壇思想界教育界にはトルストイの藝術及び哲學から深い影響をうけた人が尠くない。さういふ人たちの發企で歡迎會が盛大に催された。

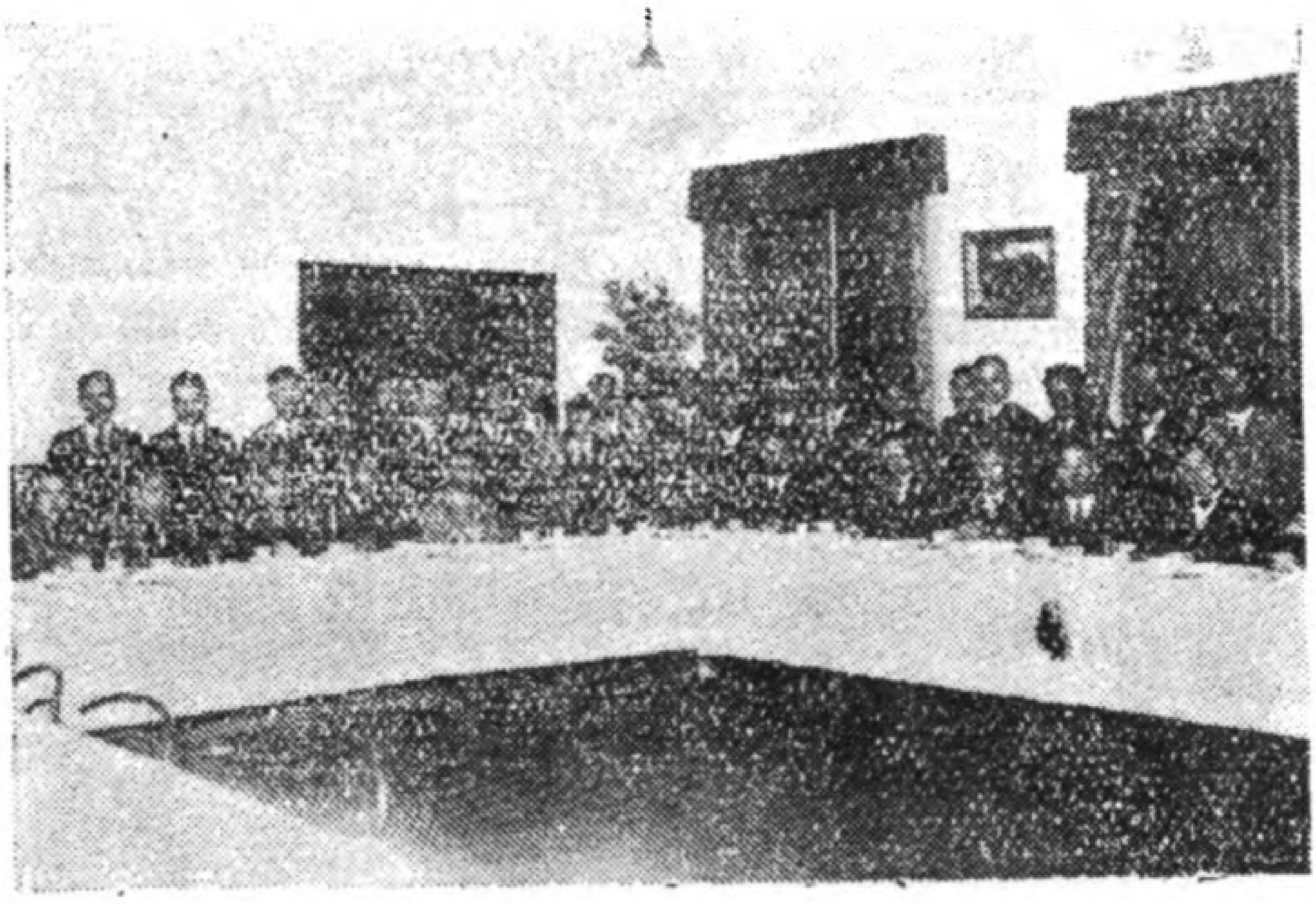
四十幾才の見あげる樣に大きな體格の持主である嬢の音量は豊かでチヤーミングだ。ロシアでは父トルストイの藝術と哲學が二つに分けられて藝術はすぐれてゐる、然し、彼の哲學はよくない、といふ風にみられてゐますが、之はほんとうによく彼を理解した觀方であるかどうか疑問だといふ一言は全然同感だと思はれた。

一ケ月あまり日本の借家に住んで日本の生活にふれて歸國の由。

を寄食させながら、これまで男性が女性を寄食させてゐた際に取つた横暴なる態度をこのやうな寄生蟲に取らせなければならないといふ傳統による性的悲劇である。

自分では毎日或は工場に、或は事務所に終日過劇なる勞働に從ひながら、尚且つ家庭に於ては、傳統的なる女性の生活が解放されないで、依然として男性に奴隷的に奉仕してゐる狀態である。もとより、このやうな狀態は意識標準の高い知識階級の婦人の間に於てはまれにしか見られない現象であるが、意識標準の低い職業婦人の間に於ては、女性としての自覺がよく行渡らないから、單に、生活難のために職業に就いてゐるといふ程度のものであるから、自分に寄食してゐる男性の傳統的横暴さに對しても、それがいかに自分自身を、否、婦人全體を侮辱してゐるかといふに止まらず、同時に彼自身をも人間的墮落をなさしめてゐるといふことに氣がつかずそれをあるがまゝに認め、その行爲が男性そのものゝ行爲であるかのやうに何の疑ひもなく是認してゐるところに、この種の職業婦人は二重の奴隷的地位を强ひられてゐるのである。一方に於ては勞働婦人として資本階級のために搾取され、他方に於ては傳統的なる男性のために搾取せられて、いづれも人間としての自己の地位に立脚することが出來ないのである。

このやうな生活狀態をみて私共は何よりも痛感するのは、婦人としての自覺である。といふよりも人間としての自覺である。つまり、自分も人間的墮落をし



前列中央岡本利吉氏同じく左より三人目奥氏

わが邦の消費組合運動の先覺者岡本利吉氏がその思想大系を「規範經濟學」にまとめて刊行された。唯物史觀に立つ經濟學全盛の今日、氏

ないといふ、相手にも人間的墮落をさせないといふ人間的體面を確保するための自覺が必要である。單に、生活難から婦人が勞働市場に姿を現はし男性の職業の爭奪をするに止まるものであるならば、職業婦人の増加はむしろ排撃すべきものである。

婦人の地位の向上といふことは、單に、自分が經濟的能力を發揮するといふことに止るのではなく、これまで立たせられてゐるところの奴隷的地位から獨立した個の人間としての地位を獲得することでなければならない。さうでなければ、比較的閑散な家庭勞働から工場や事務所の過激なる勞働に移しかへられるだけでも、大なる損失といはなければならない。單に、それは婦人自身の損失であるばかりでなく、益々男性の失業者を續出せしめるものである。そして、その必然的現象として多數の結婚不能の男性と一部の寄生蟲的男性をつくる上に於て決して喜ぶべき現象とはいへない。

しかも、かういふ職業婦人の中には時代的にいつて、その意識標準こそ低いがかなり高等の教育をうけてゐるものが屢々見うけられる。しかし、婦人の自覺といふことは本來からいへは、さうした行動の教育をうけないでも、その教育程度によつて高等女學校或は高等小學校程度の教育過程に於て足りるものであるが、現代の教育なるものが、すべてブルジョア意識と封建時代意識との混交によつて出來上つてゐるものであるから、高等の教育をうけてゐるものであつても、尙且

は、經濟學はわれ〱の生活のために規範とならねばならない學であることを主張されると、平凡社の下中彌三郎氏、小野武夫氏らがこもごも立つて、同意見であることを述べられたあと村落自治の必要を强調された。殊に小野氏は、農村の運動は地理的政治的な區域に從つて起つたものは大抵失敗に歸してゐるが、昔からの村落中心で進めてゐるものは極めて自然な發展を遂げてゐる、と組合主義の上に傾聽すべき話をされた。

「規範經濟學」の中には、わが消費組合共働主義の運動が經濟學の内にありてどんな地位と職能をもつべきものか、についても恐しい意見が發表されてゐる故、大方の讀書氏にこれをすゝめたい。賣り上げは全部氏の事業である農村青年共働學校の經費にあてられるのである。本社でも取次ぐ。

つ、眞實の意味に於ける人間的自覺に到達することが不可能なのである。成程、ブルジョアジーは人間的自覺から專制貴族に反抗してその奴隷的地位から解放された階級ではあるが、近代に於ては、プロレタリアを自分達が曾てありし地位に置きかへることによつてお互に人間的墮落を來し、そして、その敎育方針に於てそのやうな人間的墮落に立脚してゐるものであるから到底救ひ難いものである。

故に、前いつたやうな無自覺で二重の奴隷的地位に苦しんでゐるやうな婦人を自覺させるのには、どうしても、本誌の如き雜誌の續出が望ましいのである。けれども、一般的無自覺に加へてこの種の雜誌の經營困難の點から、寥々曉の星の如き有樣であるのは何といつてもなげかはしいことである。だが、それは時期の問題である。

如何に戰つて來たか ●●● 昭和四年を回顧して

キリスト教婦人矯風會――全關西婦人聯合會――國際連絡婦人委員會――職業婦人協會――婦選獲得同盟――櫻楓會――婦人消費組合協會

廢娼運動の一ヶ年

基督教婦人矯風會　久布白落實

一ヶ年と申しても、三月から二月まで、又は九月から八月までと云つた風にいろ／＼に別けて、仕事をやつて居ますが、こゝではつまり一月十二月までの暦年を基調としての數へ方のやうですから、多少運動の方から云へば半々にかゝりますけれど、其つもりで述べて見ませう。

一月から六月まで

昭和四年の一月から六月までの間には縣會は、京都を除く外入りませぬ。御大典の爲めに延期された京都が、一月に縣會を致しました、其時殆んど不意打ちと云つてよいやうに、或る有志の縣會議員から聲が上げられ、これに矯風會、廓清會否むしろ御大典當時に出來上つた京都廢娼期成同盟が主となつて、之を應援し數日の内に陣容をとゝのへ旬日の内に八千餘、調印を集むる等實に目覺しき運動が進められた、勿論戰ひは勝ちと云ふ事は出來なかつた然し、彼の京都の地に於て此事即ち廢娼の建議案が縣會に提出せられ、請願が萬に垂とするまで集められた事は刮目すべき出來事であつた。

議會に於ては

中央運動は輿論の熟するまでは効果薄き事を思ひながらも例の如く一方決議案とし、他方建議案として二手に別れて之を提出した。今年は數十年來廓清會の役員又は會長として立たれし安部磯雄氏自ら提出者となり、且つ議會に於ける第一の處女演說として之れが說明をせられし事は內外に於て非常なセンセーショ

ンを起して、反對の立場に立つ、代議士諸氏さへ「安部先生の御說は」と云つた工合で敬意を拂はれた事は從來の該運動の上に、無形の内に一新紀元を畫したと云ひ得やう。

六月より十二月迄

六月に廢娼特別運動開始後、滿三ケ年完了の第四次年會が日本靑年館に於て催された、この集會はいづれの方面よりするも記念すべき大集會であつた、明治二十六年以來即ち群馬縣が全國に卒先して廢娼の實を擧げしより滿三十五年を經て、始めて此處に四縣の廢娼建議案の決議を見たのであつた、二十五年がゝりで四縣に於ける廢娼の決議を見た同志のものは、喜びに充ちてこの集會を迎へ埼玉、福井、福島、秋田より各々其縣會議長、議員、内外の中心人物を圍んで其策戰を語り、將來を計つたのであつた、又一方特別廓淸運動の方では、三ケ年の間に已に十八縣に亘つて廢娼聯盟の組織が成り南岡山より、北秋田に到るまで日本の中心を一貫して已に聯盟組織の成らんとするに鑑み、更らに向ふ五ケ年を期して、第二期の運動として殘る三十縣を悉く網羅し、最後に總動員を以つて中央にせまろうと、云ふ事になつた。

握飯運動

此の運動の最初から一番の苦手は兵糧であつた、凡べての運動がそうである通り、この三ケ年の特別運動を進めるのに、第一事務所、事務員、印刷物、講師、一から十まで金なしでは動けぬ、最初三年の運動費として六萬圓を議した、然かも其部長は自分に宛られた、自分はとても出來ぬと思つた、然しこの運動のもと起りと云へば自分である、今更石炭運びはいやだとは云へぬ、終ひに過去十年間に得た廢娼の友(十錢袋の友)四十萬の中からこの六萬圓の同志を得やうと決心した、即ち三ケ年に百圓の握飯を六百箇と云つてあまねく全國を行脚した、二ケ年の内に願ひは叶へられた。當時から第二期の運動は姙まれた、今度は即ち第二期、五ケ年間に拾九萬圓の募金である。今度は然し握り飯を少さくした、五ケ年間に三十圓の友を六千三百五十人得やうと云ふ運動である、ほとゝぎす八千八百聲鳴くと云ふ、この運動もほとゝぎす並に繰返したらこの兵糧も集まろう、斯くして我國の地平線下の婦人押上げ運動も其成就の日を俟ち望んで居る。

× × ×

戰跡

全關西婦人聯合會　恩田和子

全關西婦人聯合會は關西二府二十二縣にわたる六千餘の團體の聯合體であります。

毎年一回大阪に大會を開催して、各會が一年間に爲すべき活動方針について協議します。六千個の團體の平素の活動が聯合會の眞個の仕事でありますが、今それを一つ一つこゝに記します事は、與へられた紙數がゆるしませんから、全關西婦人聯合會の名を以てした仕事の重なるものだけを御報告しませう。

一、婦權獲得運動

平素は各縣聯合婦人會の幹部たちが土地選出の代議士に向つて運動してゐます。法律案提出については婦選獲得共同委員會に名をつらねて居りますが、議會開會中東京に於ての活動は地理上の關係で主として東京の團體の力による事多く、本會として十分のはたらきは出來ませんでした。

請願書による活動は本會の最も得意とするところで、今春は二十萬部を印刷して各縣に配布し、これを纒めて代表者數名東上、議會に提出しました。

婦人が政治的に目覺めることが、婦權獲得の原動力になります、本會では平素各縣婦人會に講演會、研究會などによつて出來るだけこの方面の覺醒と活動の歩を進めさせて居ります。

一、市會議員選擧運動

春の市會議員選擧の際には大阪部をはじめ各地聯合婦人會幹部は議員として崇敬に足る候補者のために應援演説し、又、大阪部では市内目貫の場所百五十ケ所に市民へ警告の大看板を掲げました。

一、全關西婦人聯合大會

昨年御大典のため延期になつてゐた第十四回全關西婦人聯合大會を四月二、三兩日にわたつて大阪で開催しました。參集の代表者三百二十五名、討議研究議案を次の五部に分けて委員會に附議し更に大會に於て對議しました。一、現代教育の根本的改善 教育部)二、經濟國難にあたり婦人として爲すべき仕事について(經濟部)三、國際的平和の提唱、(A)日支親善の實現、(B)米國大統領への祝電と移民問題(國際部)四、婦人に關し改正すべき法律、法令及びその改正促進方

法について（政治部）五、婦人として緊急に最も力を注ぐべき社會事業について（社會部）一では宗教教育と實際的教育が主眼としてあげられ、四では婦選獲得、男女貞操平等の爲の刑法改正、嫡出子の優越權確立、婦人の財産權獲得が決議され、五では子供愛護運動、深夜業に伴ふ施設の研究があげられました。特記すべきはこの後に行つた本會の經濟運動が、この大會に於て十分なる準備によつて火蓋を切つて乘り出したことです。

　大會の翌日より各地に於て縣聯合大會を開催し、大阪に於ける大會の報告と決議の實行運動に着手しました。

一、深夜業廢止について

　本會はこの問題について五年間戰つて來た。工場法の定むるところによりいよ〳〵七月一日を期して全國一齊に廢止が實施されることになり日頃のわれらの努力が報ひられるに至つたことを喜び、此日を記念するために大阪に於て大講演會を開催し、更に同月中旬、京阪神に於ける大紡績工場の代表者二十名を招じて餘暇を有意義に使用することによつて深夜業廢止の實をあぐべく意見の交換をなしました。

一、經濟國難救濟運動

　本會に於けるこの運動は數年前より行はれ、前内閣中期に於てその聲を高め今年四月の聯合大會に於ては最も重要なる問題として議されたのでありますが、現内閣が組織され財政の立直しを使命となし、財界の癌なる金輸出禁止を打開し財界の安定を計らんための緊縮政策をたてました。これは大體に於て本會の日頃の主張と合致したものであります。さうかうしてゐる間に本會は、我國の危機一日も空しくするをゆるされざる時機に入つたことを洞察し、いよ〳〵國難救濟大運動に着手の計畫をたて、序幕として開催したのが八月十五日大阪に於て井上藏相を講師とした消費經濟講演會でした。婦人會主催の席に國務大臣顔出しの最初である事を珍らしがるよりも、日本の男子がつくつてゐる政治機關の主腦部の一人である井上藏相が蔑視しきつてゐた婦人の前に出て嘆願しなければならぬ程わが國は難境に立ち惱んでゐる事を思つて私共寒心したのでした。

　續いて九月二十一日、本會主催となつて全日本婦人經濟大會を大阪に於て開催しました。

　この大會の討議は、金解禁促進及び金解禁後の財界の安定を目標として、われ〳〵婦人の立場より爲すべき仕事を研究し、合せてその決議の實行を期すべく强調しやうといふのでありました。

全國からの婦人團體の代表二百九十九名、建國以來まだ例なき、又、わが國婦人界に劃期的な意味ふかいこの大會は終始、眞摯熱烈にとり行はれました。

決議事項は次の通り、

第一項、輸入抑制

一、輸入贅澤品不買申合せ

二、日用品の單純化運動

三、優良品生産奬勵

第二項、物價低下運動

一、關稅及び消費稅廢減運動

二、不當に高い協定値段引下運動

三、不當に高い品の不買申合せ

第三項、消費節約

一、不必要品排除

二、水道電氣瓦斯の節約

三、諸禮の節約

四、日本全國の家庭共通の時間割と週間行事の實行

第四項、婦人の産業組合組織

○研究せる事項

第一項、生活の合理化

一、衣食住の合理化

第二項、決議事項の實行普及方法

この大會に於て東京婦人團體代表者諸氏十一名が連名で「政治を離れて經濟運動は出來ない故婦選獲得をこの大會よりその筋に建議したい」と動議されたのが否決になつた事がその後東京の一部の婦人たちの問題になつたやうであります。

人類の眞の幸福、社會國家の眞の向上發展を計るとき、婦人が男子と平等の政治上の權利を有してゐないといふ事が各方面で不都合を來さしむる原因の一つである事は誰しも痛感し、本會も權利獲得には大いに努力しつゝあるのであるが、今度の經濟大會は公民權さへ年內に得られさうもないその婦選獲得を待つて居られぬ焦眉の急うまくゆけば今年中に金解禁が斷行されるかも知れない、この斷行期を一日も早からしむるための大會だつたのであります。

この大會に東京代表者諸氏がかゝる動議を出されたのは、わが國財界の現狀を明確に觀取することが出來なかつたために理論に偏されたのであつて、關西代表者諸氏がこれを退けたのは實際に即した當然な處置であることは多少財界の事情を知る者の皆うなづくところであります。

婦人の向上とともにその取扱ふ問題も專門的に分れて深く進んでゆきます、之又當然の傾向であることも私共は認知しなければなりません。

明年より永續的に年一回全日本婦人經濟大會を開催いたします。今年の特種の性質をもつた大會と異なつて明年からの

大會は一般的經濟問題を議するやうになるのでせうが、それであつても、經濟問題の解決の鍵は婦選にある、婦選の解決の鍵は國民の教育問題にある——といふやうに、八方につながる各種の脈にまで手をのばすか否かは研究の餘地があります。

經濟大會後各縣聯合婦人會は大會を開催して報告をかね經濟運動に着手しそれ〴〵活動中であります。

大會は全國婦人を刺戟したのみでなく、生産業者、商賣方面にも大ショックを與へ、東部西陣織物業者たちより本會に向つて、織物に對する婦人の態度を知るべく申込んで來たのをはじめとして各方面より研究的交渉を受けつゝあります。婦人の力が産業界を動かすやうになつて來たのであります。

一、國際平和運動

四月の聯合大會も平和運動について議せられました、各國の名士の來阪の際に招じて數回講演會又は歡迎會を開きました。今度軍縮會議が開催されるについて、本會は第一回軍縮會議以來活動して來た趣旨に基き、全權たちに對して婦人の意志を表示し軍縮を徹底されるやうに運動することになつてゐます。

本年の國際婦人運動について

國際聯絡婦人委員會　市川房枝

唯今手許にわかつてゐますだけお答へして、責をふさがせていたゞきます。嚴密な意味で、日本の婦人運動の國際的進出といふものは、まだ餘り發展してゐませんけれど、昨年のハワイに於ける汎太平洋婦人會議が日本の婦人へ、この問題について著しい興味を喚起したるは事實でありませう。

昨年の夏以來殆ど十ケ月を閲して生れた、國際聯盟婦人委員會の出現なども其の情勢の然らしめたものといへると思ひます。

この會は各方面の婦人を代表する（國際及米組織の分野別に）十八名の婦人委員によつて組織され、ゼネバに於ける國際婦人聯合委員會及他の海外に於ける各種團體及び個人と、日本の婦人團體及個人との聯絡を計るのを目的として居ります。

この會は、本年六月、明年ハワイで行

はれる第二回汎太平洋婦人會議に關する一切が、前回の會議の權縦委員であつた井上秀子氏より引き繼がれましたので、政治、教育、勞働、社會の五部門に分れた調査委員會が已に設置され、やがて代表選考の問題にも更に進まうとして居ります。

この會が出來る時、これをナショナル、カウンシルにしたいといふ希望は我國の識者の間にもあり、又インターナショナルカウンシルオブウイメンからも希望の旨が申越されましたが、まだそこまで實際に進むのにはしばらく間のある所らしいのです。

本年、日本婦人が國際的な會合に出席したものとしては、四月十日から十三日まで巴里で開かれた萬國女醫大會に、伯林留學中の東京女子醫專卒業の吉原りう子女醫が出席されたのと、國際婦人參政權及平等市民權協會の伯林に開かれた大會に、婦人參政同盟の河口愛子、北村兼子二氏が出席した事、及十月末京都に開かれた太平洋問題調査會議に、星野あい、辻まつ、三谷民子、安井啓子の四女史が日本婦人代表として出席された位に止まるのではないでせうか。

國際婦人參政權及平等市民權協會には、大正　年婦人矯風會內の日本婦人參政權協會が加盟し、昭和三年婦選獲得同盟が、本年に入て、婦人參政同盟が第三番目として加盟を承認されたのでありますが、かく一國內に數個團體加盟の必要ありや否やについては各團體に相當問題視されてゐますから或は將來聯合委員會でも作つて、そこが聯絡の一切を引受ける事にでもなるかと思はれます。

婦人矯風會では來年一月ワシントンに行はれる萬國婦人平和會議に、ガンドレツト恒子氏と林歌子氏を代表として送り、二女史は更にロンドンに行はれる五國軍縮會議にも日本婦人十萬の軍縮請願を持參して、大に日本婦人の爲に氣を吐かれるとの事です。

これを劈頭として來年こそはもつと素破らしい發展ぶりを示してほしいものです。

職業婦人協會について

サラリーマンの問題がやうやく世人の中心題目になつて來た今日、われわれ職業婦人の問題も同様重大な意義をもつて婦人運動の一分野を進むべきときが到來したのです。

會報第一號をすでに發刊した私たちは、來るべき年のたゝかひの準備を今かためてゐます。

山田まち子

昭和四年婦選運動の回顧

婦選獲得同盟　金子しげり

□

今年の婦選運動でまづ一番に思ひ出すのは今春の議會に於ける婦人公民權問題の成行である。

婦人公民權問題がこれ程具體的に取扱はれたのは凡そ今年が初めてゞあつた。

即ち前年の特別議會後、政友會が人氣取策として掲げた事に端を發し、次で政府部內の行政制度審議會に婦人公民權の審議も加へられたゝめ、運動は急に進み一時は第五十六議會には公民權は政府案として提出せらるゝやの豫想さへ抱かれたが、望月內相初め閣僚中に尙早論者多く、一月初、遂に政府案としては絕望と見極めがついたので、茲に新戰術はめぐらされ、休會明けと共に、同一の婦人公民權案が政友一五〇・民政一〇〇、小分派二十餘によつて各自提出される事となり、茲に果然衆議院通過の空氣を作る事が出來た。

政府は狼狽、上程を阻止せんとしたが遂に二月七日上程委員附託となつたので、運動は此方面に集注されたが、政民自說を持してゆづらず、爲に委員會の開催も不能の狀態に陷り、この間政府は與黨委員懷柔の策を極め遂に三月一日委員會を開き最後の審議を行ふや政、民互に降らずして、案は茲に委員會に於て打ちこわされ、五日の本會議には政友が自案を撤回し、民政の修正案は反對にて否決となり全く政府の意圖通り葬り去られた。

然し乍ら、運動は遺憾なく行はれよく第五十六議會の中心問題となさしめたので、輿論も亦著しく喚起され、全國的に未だ曾てないセンセーションをまき起し、婦選運動の上に急激なる進展ぶりを示したといへる。

この運動は前年秋婦選獲得共同委員會によつて無產婦人團體は干與しない申合せであつたゝめ、主として婦選獲得同盟が働いたが、共同委員會としては婦選三案に對する請願の街頭署名運動を一月二十七日東京市內十八ケ所に行ひ總計四三二九名を獲て衆議院に提出した。

□

續いて三月に行はれた東京市會選擧に

は解散後の浄化市會の選擧であつたゞけに、婦選團體も大に參加して働いた。

婦選獲得同盟、婦人市政研究會は浄化運動より推薦候補應援にまで進出したし、各無產婦人團體は自黨候補者の爲に極力應援の一途に集中した。

婦選獲得同盟が推薦した八名は六名當選内三名は最高點當選者であつた。

所が新市會が第一に取上げたのがガス値下の問題であつたゝめに、婦選獲得同盟、社會民衆婦人同盟、婦人參政同盟、婦人市政研究會によつて婦人のガス値下運動が四月以來開始され、それが無產議員團の提唱による供託運動に合流してからは、參政同盟、市政研究會などは脫退したが、婦選と社民は最後まで踏み止まり、これに堺眞柄氏一流や消費組合側よりも幾分參加してこの運動は秋まで續いた。しかも商工省裁定はこの運動の目ざした、增資は却下となり、殘る値下問題は目下市と社の間に尙抗爭中未解決の狀態にあるが、抽象的といはれた婦選運動が、たゞに議會中心の獲得運動の範圍を出でゝ日常鬪爭に進出した事は、本年の收獲といへるかも知れぬ。

□

七月政友内閣倒れ、民政内閣立つや、緊縮政策を掲げて大に婦人團體にも呼びかけを實行したので、秋以來、全國婦人團體が消費節約の實行に動き出したが、婦選獲得同盟はまづ公民權を與ふべしと、政府に向つて猛運動を開始し、從來の機關誌「婦選」を擴張して一般向の婦人雜誌となし、全國の婦人の政治的自覺を促すに努めて居る。

無產婦人團體中、無產婦人同盟は舊無產婦人聯盟系と舊全國婦人同盟系との融和を缺く爲に實行力を殺がれ、社會民衆婦人同盟がまづ活動して居るが、仕事多くして働き手の足りぬ憾がある。目下は區會選擧の應援に忙しい。

□

尙本年六月伯林に行はれた國際婦人參政權及平等市民權協會の大會には婦人參政同盟より河口愛子、北村兼子の二氏が出席したし、秋十月末より京都に行はれた太平洋問題調査會議には、英國のデーム、リツトルトン、米國のルディングトンなどの婦選の鬪將連が續々來朝したので大分日本の婦選運動も國際的に接近して來た感を一般婦人によせた。

□

來議會と婦選案、それは如何なる展開を示すか。政友會の公約、民政黨の野黨時代の厚意は如何に果され、示されるか、解散を當然とする來議會を前に、政友新總裁犬養氏が、婦人公民權即時賦與を叫

べば、民政黨も金解禁後の新政策にこれを加へ、匂ひだけは前年に劣らない様子だが、總選擧を控へた既成政黨として、選擧の政策にこれを加へらるか否かは大に疑問であり、そこに亦運動の機會も秘められて居る。

昭和四年の回顧は當然昭和五年への進展の豫測と希望を伴ふ。而して運動の渦中にある自分としてはたゞ善戰これに當りたいと希ふのみである。

運動方針の大略

櫻楓會　出野政子

櫻楓會昭和四年度の集注點は今春總會に於て精神運動經濟運動を中心としたる計畫研究　項目及び運動内容は省略）を各支部に於て普及實行に努力する事に決議致しました。

一、先づ各支部に於て修養會を起し會員各自精神運動の根本動力——信念涵養に精進する事。

二、經濟運動としては消費の合理化として標準生活（母校に於て研究せられしもの）の實行普及に努力する事、

三、産業組合の徹底と實行に努むる事、

四、母の會としては母の任務を如何に完ふするかの立場より諸問題を研究實行を期する事、

イ、母の日會（六月二十五日）の趣旨の普及を計る事、

ロ、二十五歳禁酒法期成のために努力する事、

五、參政問題については公民權參政權獲得後これを如何に行使するか、而して如何なる方面に最も貢献なすべきかについての研究

大略以上の様な方針で研究と運動とを期するため今夏八月輕井澤に於ても全國支部大會を催し現下我が國の狀態にも深く鑑み一層本年度の計畫精神運動經濟運動を是非我々婦人の立場より協力實行なすべき諸點につき協議を重ねました。（本會支部現在外國八内地五十四）代表不參支部には夏期大會後直ちに訪問を始め決議實行につきて徹底に努めております、要するに精神運動經濟運動の根本動力としての信念の涵養と如何に世界は動きつゝあるか、又我が國婦人は如何に動かねばならぬかについては多くの研究と努力とを要する事となります故一面には研究會を起し諸問題の解決と確信を得る事に努めてゐます。

進出せる婦人消費組合運動

婦人消費組合協會　丸岡秀子

此の一年は色々の方面から見て消費組合の存在がかなり民衆の間に認められた事と、此の運動に於ける婦人の役割が重視されて來たといふ二つの大きな喜ぶべき現象を見たと云ってよからう。換言すれば組合の組織、宣傳、經營共に一段の進歩を見たとも云へよう。

緊めよ縮めよの、現内閣の宣傳は、消費經濟に對する自覺を高め、その結果、消費經濟たて直しの最も合理的なものとして、消費組合の價値や存在を一般民衆に認めさせたといふ役割をつとめた。

九月二十一日に開かれた大阪での全日本婦人經濟大會に於て勇敢に消費組合組織の實行を力說したのは神戸消費組合の家庭會幹事であつたらしいが、その資格を十分に認める事が出來る程、此處の家庭會は常に實質的な歩みを續けてゐる。

長野縣に於ける長野、高瀨購買組合婦人會、上田松尾購買組合家庭會の如き、金澤に於ける普通婦人會等の活動の如き、共に見逃し得ない地方の大きな動きであつた。更に遠くは高知共働社に於ても農村の消費組合として力ある進渉を見せた。

さて東京に舞ひ戻つて消費組合運動を概觀すれば、今年の重大事件は關東消費組合聯盟の分裂であつた。運動發展の途上に於てこの分裂は如何にも痛嘆事ではあつたが、此の分裂以來、聯盟を初めとして各消費組合が、理論より經營への一轉換を見せ、鋭意實際的な經營に努力し努めてより、特に婦人の役割が重視され、聯盟の中央委員に進出して組織部に、經營部にそれぞれ活躍をなす樣になつたといふ事は又喜ぶべき傾向と見てよからう。一方その他各組合にある婦人部や、家庭會が日常の經濟生活を土臺とした活動振りを示した。

此の婦人の進出を最も勇敢に示したのは落合消費組合であらう、創立の準備から總て婦人の手で爲されて去る十月發會式を擧げた。この組合は日本に於ける婦人經營の消費組合として注目に價する。尚、他に婦人協同組合の設立もあつた。

之等の各消費組合の間に連絡を圖り、助け合ひ教へ合ひ、且つ消費者としての婦人の自覺を叫び起し、未組織の婦人とも連絡をとつて、お互ひに協力し合つて私共の消費生活を有利に、合理的に實質的にして行く爲めに、婦人消費組合協會も今年は又一段の馬力をかけて、その機關號『婦人と家庭』の發刊をなし、その教育方面に力を盡した。婦人の間にしみ込みかけた此の運動を更に更に進歩させる爲めに、婦人消費組合協會の使命は重い。

最後に、今年は無産政黨や勞働組合の間にも消費組合運動の重要さがはつきり認められて來たといふ事を見落してはならぬ。社會運動もこの三方面から各自の使命を充實させて行く時に明るい將來を期待してよいだらう。

銀座うらから

冬の日あしは短かい。とつぷり暮れた銀座の宵、華やかな灯の海を逸ふて、終日の仕事から放たれた自分は歸途を急ぐ。

×洋服店の考案部に務め始めてからは朝八時半から、夕方五時までは、自分の體ではない。『それで日給が五十五錢ですの？ 前のお職の方が、よつぽど良うございましたのね』と以前の友は、月給三十五圓だつた、代用教員時代に較べて云ふ。

五十五錢の日給――月二回の定休日と祭日を引かれると、十五圓に滿たない月もある。

然し、お金が、たくさん欲しいと思つてこの道に、入つたのではありません、もつと〳〵私の根本的な要求から……べんかいしようとする、このくぢけない氣持が毎日私をむち打ち、辨當を抱えて、銀座うらの一遇へ通はせる。今日作つた、あの高價な洋服は、一體どんな、貴婦人が着るのであらう。深々と頬を埋める厚い毛皮、今日やつと仕上げたあとで、づき〳〵する程、凝つた肩が痛む。貧しい子供たちの爲に、働らく婦人たちの爲にこそ、と、技術を習ひ覺えようとする自分は、毎日・ぜいたくな洋服を次から〳〵と作つて・肩を痛めてゐる。

『子供たちの純眞な瞳で、仰がれる時、私は恐ろしい氣がします。教育者としての資格が疑はれるのです。貧しい心の私なぞを、萬能の神の如く信頼し切つてゐる子供たちを、自分の信念を他にしても、定められた型に教育するなんて、とても出來ません』そう云つて、これまでの生活から別れた自分が、たつた一人の母の死に痛んだ心を抱いて上京したのは、丁度七年前である。

それからの自分といふものは、外面は叔母の豐かな家に平穩に過しては來たが、氣持の上で、何といふ四苦八苦を續けてゐたことであらう。

そして此頃も或るヂレンマに惱まされてゐる自分を見出して、ゆううつになる。結局行手は、ひとつであらうものを。

×

[redacted]

×

雄谷濟子

勞働女塾について

織本貞代

（一）

勞働女塾は本年の八月一日にやつと孤々の聲を擧げた、從つてまだ四ケ月を閲してゐない。生れたばかりの勞働女塾は勿論まだこれといふ程の成績を擧げ得て居ないし、教育方針經營方法共に實驗臺上にある。そこで私は塾の誕生までの經過を主にして筆を進めて見度いと思ふ。

（二）

無産階級××が婦人の組織と訓練を無視しては遂行されぬ事はレーニンの言葉を引用する迄もなく日本のプロレタリアが過去で實踐を通じて痛感して來た所である。實際、階級戰線の一端に參加した事のある人は何人も此の事について深く考へさせられたに違ひない。わけて我國勞働者總數の半數以上を占める勞働婦人が僅かその一分三厘の組織率しか持たないといふ事は如何に婦人勞働者の組織と訓練とが日本のプロレタリアートに取つて急務であるかを物語るものである。勞働組合婦人部、農民組合婦人部、無産政黨婦人部等は何れも此點に留意し、それぞれその對策を講じてゐるが、貧しきが故にあらゆる教育の機會から除外せられ、女なるが故にあらゆる社會との交渉から切り離されてゐる所の多くの勞働婦人に組織を持たせ訓練を與へて行く事は常に至難の事と考へられて來た。

もとよりそれは至難である。わけて此の至難な仕事は近時資本家階級の意識的反動的教化と自覺に對する巧妙なる壓迫によつて益々至難となりつゝある、資本家達は勞働組合の影響から勞働者を防衛する爲に實際あるゆる手段を講ずるのである。曰くスポーツの奬勵、娯樂機關の設置、反動的教化の充實等。

勞働者の組織體が之等資本家の僞瞞と戰ひ拔く爲には組織體自身のあらゆる對策は勿論有力なる補助機關を必要とする事はいふ迄もない。わけてその社會的地位の劣等により必然的に自覺の遲い勞働婦人の爲に――。塾の生れた第一の原因は此の點にある。

（三）

近時産業の合理化運動は打ち續く不景氣と共に益々激烈を極めつゝある、わけて中以下の資本家系統にあつては大資本の如き優良なる機械その他の施設をなす

べき能力を缺き、大資本との競爭の爲には、合理化の形態は勢ひ勞働力に對する搾取一點に集中される。賃銀切り下げと勞働の强化、最後の一人にまで及ぶ冗員の馘首等には、かつて類例を見なかつた程の勢ひを以つて全勞働者の生活を脅かしつゝある。かゝる生活の不安、かゝる資本の攻勢に對して防衛的な爭議が近來著しく殖えて來た事は官廳の統計すらが語つてゐる。が玆に注目すべきはかゝる狀勢の中にもわれ／＼は從來無智と無氣力以外の何者でもない樣に思はれてゐた勞働婦人の、しかも婦人の手のみによる鬪爭形態をしば／＼見る。

自然發生的な之等の鬪爭に對して意識的な自覺を與へる爲にはよき組織者が必要である。所謂鬪士の養成、勞働婦人の自覺への最も親しまれ易き媒介者を養成する事は塾の生れた第二の原因である。

（四）

時代は刻々に婦人に新しき社會的地位を與へ新しき自覺への數々の條件を造り出して行く。しかしながら押しひしがれ、虐げ盡された暗い彼女達の生活に、何時、何處から、明るい光が射そう、工場地帶の中心地に於いて、裁縫料理等の極めて卑近な問題から、彼女達の自覺への足場を求め度いといふのが、更に此の足場に據つて未組織の婦人に組織を與へるよすがともし度いといふのが塾の生れた第三の原因である。

（五）

以上極めて大まかながら三つの原因を擧げて來たのであるが何れにしても塾の目的とする處は、暗い勞働婦人の未來を轉じて、明るい光明に充し度い爲に、光明への鬪爭に一人でも多く動員し、一日も早く目的を遂し度い爲に勞働者自身の組織體に一個の補助機關としての任務を果し度い事之れである。

塾の四ケ月は誠に多難であつた、目に一丁字なき婦人から高等科卒業までの各段階に亙る個々の塾生にそれ／＼階級意識を植えつけて行く事は全く不可能事と思はれる程に困難を伴ふ、級の編成、教育コースの編成ともに次々に變更され、いまだに安定を見てゐない程である。だが三十名足らずの塾生は勞働婦人のみに特有の解放に對する熱意と、鬪爭への固い決心をもつ人達である。これ等の人が自ら塾の存亡に責任を持ち常に自發的に塾の擴張と發展の爲に行動しようとしてゐる態度は何物にもかへ難い塾の基石であらう。

勞働女塾はいまだに黑板も買えない程の貧乏さであるが必ずや明日の日あるを附言しておき度い。

童話

大きくなつたら

三井みさ子

赤い夕やけが空一ぱいでした。

「さあ、こゝでいゝわ、おかへりなさいね、氣をつけて行くのよ」

姉さんはさう云ひながら手をはなしてはくれませんでした。

「信ちやんはいゝ子だから、早く大きくなつて丁だい。ね、そして、みんなを樂にさしてね」

信一はだまつてうなづきました。

「さあ、さようならをしませう。」

姉さんは信一の頭をなでゝくれました。

「さようなら、姉さん何時かへつてくるの？」

「たくさんたくさんねんねしてから……信ちやんが學校を卒業する位でなければかへれないの」

「何故？」

「何故でも。」

姉さんはもう一度頭をなでゝくれました。

「信ちやんはお母さんの仰ることをよくきいて、早く大きくなるのよ、ね」

「姉ちやん、僕が大きくなればかへつてくるの？」

「えゝえゝかへりますとも……」

この時、信一の抱いてゐるいゝちやんが、長い耳を立てゝ何か來たことを知らせました。

「犬よ、こはくないわ。こゝに見てゐて上げるから……」

そうして姉さんは下においた荷物を取上げました。

「じあ、さようなら、姉ちやん、いゝちやんの頭もなでゝ」

姉さんは笑ひながら、兎さんの頭もなでゝくれました。そうして、

「耳があつて、なでにくいわ」

と云つて笑ひました。

信一さんは、姉さんのやさしい瞳に見送られながら、いゝちやんを抱いて道をいそぎました。村の小道の角で立止つてふりかへると姉さんはまだこちらをむいて立つてゐました。信一さんは、あはてゝいゝちやんを高くさしあげて見せまし

た。
「そら、いゝちゃんは、ハンカチのかはりだよ、白いから……」
　お家へかへると、お母さんはまだ畠からかへつて來てゐませんでした。祖母さんが一人で夕食のお仕度をしてゐました。
「お祖母ちゃん、姉ちゃんはどこへ行つたの？」
「姉ちゃんは、遠い〳〵町の工場へ行つたんだよ」
「何しに？」
「働きに」
「何故働きに行つたの？」
「今年はね、不作だから、働きに行かなければならないのさ」
「どうして不作なの？」
「さあ、それは判らないが……きつとまわり合せとでも云ふのだらう」
「ふーん」
　信一はつまらなくなつて、いゝちゃんの箱のところへ來てみました。いゝちゃんは昨日やつたおからをみんな食べてしまつた、何だかひもじそうに目をくるくるしてゐました。
　毎日、夕方になると、信一さんのお家の前へ、お豆腐の荷かついで通る小父さんがあります。いゝちゃんが、山の向ふの家から信一さんのところへもらはれて來てから、毎日大低の日にはその小父さんから、おからを買つてやるのが信一さんの役目でした。
　今日も、もうじき、あの元氣のいゝラツパの音がきこえるでせう。
「いゝちゃん、いまね、ごはんを持つてきてやらあ、待つといて」
と云つて、信一さんは臺所へ走つて行きました。
「祖母あさん、いゝちゃんのおから買ふの」
「……」
「ね、祖母ちゃん、いゝちゃんのおから買ふの――」
　祖母さんはだまつて向ふむきになつてゐました。しばらくして、大そうむつかしそうな顔をして、
「信一、一寸、こゝへおいで」
と云ひました。信一さんが走つてゆくと、お祖母さんは上りまかなに腰をかけて、信一さんをひざの上に抱き上げました。
「いゝかえ、いゝ子だからきゝわけるのだよ今年はね、不作で、お家ではずいぶん困つてゐるのです。それで、姉ちゃんも町へ働きに行つたし、明日にもお母さんも町へ働きに行かなければならないかもしれない――それでね、いゝちゃんに

おからを買つてやることが出來るのも、今日つきりなのだよ。」

「いや、お母さんが行つちやあいやだ」

信一さんはかぶりをふりました。

「お前もさびしい、そうして、祖母ちやんも大變にこまるんだよ、けれども仕方がないのね．いゝ子だからよくきゝわけて、そして早く大きくなるんだよ、お前さへ大きくなれば、みんながしあはせになれるのだ、ね、さあ、もう今日だけだから、いゝちやんにたくさん食べさしておやり」

祖母さんはそう云つて、帯の間からいくらかを出して信一さんの手に握らせました。

このとき、通りに小父さんのラッパがきこえたので信一さんはあはてゝ、祖母さんのおひざから下りて、走つてゆきました。

「信ちやん、いゝちやんのおからかな」

小父さんはちやん　荷物を下して待つてゐてくれました。

「うん、小父さん、たくさんおくれ．もうあしたからいゝちやんのおから、買へないんだつて」

「どうしてかな、信ちやん」

「あのね、不作だつて」

小父さんは默つて、小さいざるにおからを盛り上げてくれました。

箱の前にしやがんで、入れてやると、いゝちやんはうれしさうに耳をゆすりながらおからを食べました。

「いゝちやん、あしたからは、菜つ葉ばつかりだよ……」

信一さんは、お母さんが、どこかへ行くといふのが心配でたまりませんでした。

「おりこだから、早く大きくなるんだよ」

と、お祖母ちやんの口まねをして、いゝちやんにきかせてやつてから、いゝちやんに新しい水を入れてやりました。

そうして、お母さんがもう畠からかへつてくるだらうと思つたので、走つて道まで迎ひに行きました。

その時、土にまみれて、くわを肩にしたお母ちやんは、さつきの小父さんとまだ話しをしてゐました。

「お母ちやん！」

と信一さんがよぶと、二人は御あいさつをして別れ、母ちやんは信一さんのそばへ來ました。大變に疲れたやうで元氣がありませんでした

「母ちやん、どつかへ行つてはいや」

「……」

「ね、母ちやん、不作だつてどつかへ行つてはいや。」

「まあ、信一は……誰にきいたの？」

母ちゃんはびつくりしたようにきゝました。

「祖母ちゃんに、みんなきいたから、知つてゐるよ、不作だから、姉ちゃんも、母ちゃんも行つちまうんだつて」

お母さんは、默つてゐられました。たゞ信一の肩におかれた手が、かすかにふるへてゐました。

「ね、母ちゃん、不作つて、いゝちやんにおからを買へなくなることなんでせう」

お母さんは信一さんを抱きかゝへて下さいました。そうして仰いました。

「信ちゃんはいゝ子だから、早く大きくなつてちやうだい。ね、そうしたらみんながしあはせになります。お母さんはお前をおいてどこへも行くもんですか、祖母ちゃんとこで一生懸命に働きませう、ね、さあお家へかへるのです」

いつか夕やけは消えて、夜がきてゐました。二人がお家へついたとき、

「まあ信一、どこへ行つたかと思つて案じたよ」

と祖母ちゃんが顔を出しました。

「僕、大きくなつて、みんなをしあはせにするよ、祖母ちゃん、そしたらいゝちやんにも又おからを買つてやらうね」

信一さんは申しました。

（一〇頁より續く）

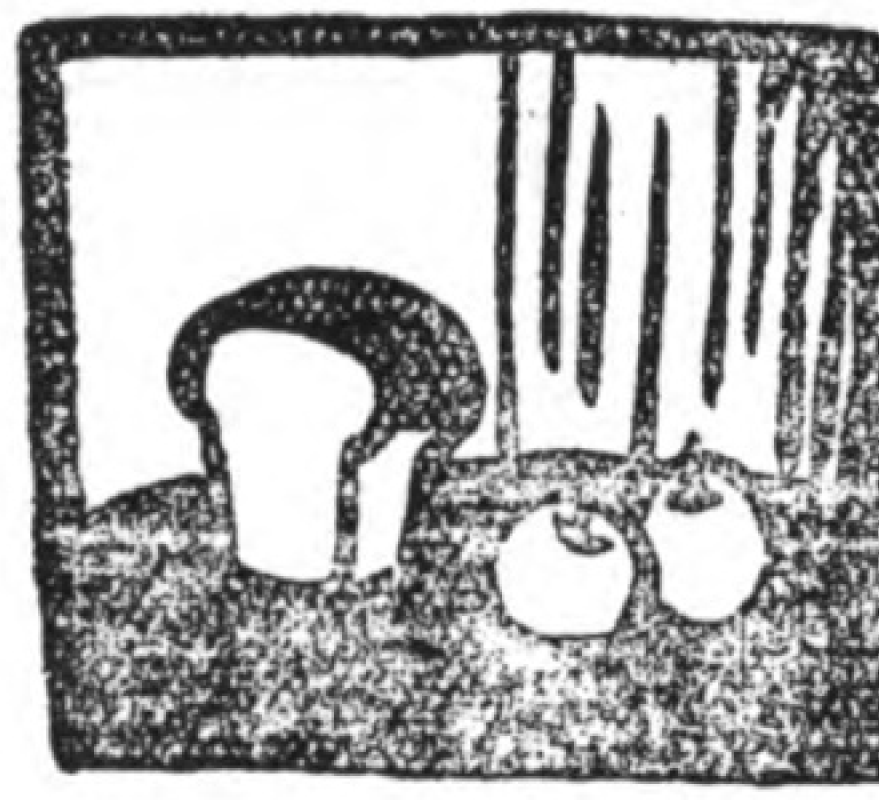
然らば婦人のサラリーマンは概してどんな氣持を持つてゐるだらうか。それはかやうな婦人の續出した原因を探れば直ぐに判る。今日では例の合理化で小ブルジョアジーが破産する。その娘は嫁に行つても生活の保障が覺束ないので、續々とサラリーマンを志望する。だが彼女達は解體した小ブルジョアジーからの脫走者であるから、始めて職業に就いて獨立の收入源を有する者の氣持と脫落した者の氣持をちやんほんに持合せてゐる。菊池氏の小說がサラリーマンに、殊に婦人のサラリーマンに歡迎されるのはこのちやんほんされた氣持を器用に分析するからである。

だが婦人のサラリーマンが時間の經過と共にその脫走した古巣の氣持を清算し、この不景氣に因つて元の古巣に脊を向け、婦人のプロレタリアートと同じ氣持を抱くやうになると、知識があるだけに、もはや菊池氏の小說に滿足しなくなるかも知れない

性的分業の壞滅と婦人參政權

五十七議會と公民權案――婦選運動の現狀――家族制度の崩壞――女性の男性化――新しい戀愛觀と結婚觀――就職難時代へ――職業市場への進出――社會的地位の主張――現代代議政治とは？

佐久間晋



濱口民政黨内閣は來る五十七議會に革命的な婦人參政權案を提出すると云はれてゐます。假りにそれが漸進的に先づ地方自治體の議員選擧權である公民權案であつても民政黨としては總選擧を前にしての御嬉嫌とり策ばかりでなく前議會以來の約束としてどうでも實行しなければならぬ案なのであります。一體婦人公民權案は前議會で政友會内閣が地方制度改正案に絡んで提出した政府案でありましたが當時の望月内相が貴族院に近合する爲『時期尙早である。一部婦人の要求であつて婦人大衆の意志ではない。』と云ふ理由のもとに削除された一項でありました。當時議會の情勢は婦人公民權に對し與黨野黨各派の代議士を通じ二百七十名といふ過半數の支持を得て將に通過の勢を示したのであります。即ち政府案が與黨議員によつて修正されるか政府が與黨議員を彈壓して贊成を取消させるか或は政府が破れて原案へ修正を加へるか・兎に角政府としては甚だ危險な立場に立つたのであります。結局既成政黨につきもの丶與黨議員の泣き寢入りといふ一幕で政府の面目は立つたのであります。かうして婦人大衆に盈まれた『公民權』の胎兒は臨月間際で遂に闇から闇へと葬り去られたのでした。

果して公法上婦人を男子と同等の地位に置く參政權或は公

民權が望月前內相の云ふ如く時期尙早であるだらうか？　なる程日本に於ける婦人參政權獲得運動と云へば直ちにブルジヨア婦人團體が傍聽するといふよりも見物させるマニキン的議會傍聽と既成政黨の代議士口說き落しのみを聯想するでせう。若しこれを英國の暴力婦選運動者パンカースト夫人やフオーセット夫人のやうな主張の爲には方法を選ばないあの捨身となつた女權擴張武勇傳の熱に比較すると些か生溫い感がないでもありません。（と云つたところで暴力を禮讃するわけではありませんが。）併し婦人公民權參政權はすでに一定の文化の水準に達した國家にとつては常識化された制度であつて婦人の運動の程度や範圍は第二のものでその國の一般的情勢が實施の條件を備へてゐるかゐないかが問題の要點なのであります。

　そこで私達は現代日本に於ける一般的情勢、特に婦人大衆のすばらしい全面的進出振りを知らなければなりません。我國に於ける最近資本主義經濟の發達は婦人をして男子と共に社會組織の綜合的一單位であることを許さなくなりました。言葉を換へて云ふならば戶主と稱する家長の權力下に統卒されて來た小血族團體である家族制度が根本から破壞されたのであります。凡そ家族制度の破壞される原因としては左の諸條件が擧げられます。

一、經濟上の原因

家屋の破壞、人口の增加、居住移轉の自由、交通運輸機關の發達、職業選定の自由

二、政治上及法律上の原因

租稅の制度、選擧權の制度、徵兵の制度、義務敎育の制度

三、思想上の原因

個人自由主義の思想、女子敎育の普及及び向上、現代文學の思想

現代我國が直面してゐる家族制度の崩壞は以上列擧した諸原因に多少なりとも何らかの關聯を持つてゐます。凡そ家族制度とは民族或は社會の構成とその機能とを維持する爲に人爲的に組立てられた家族生活の約束であります。だから家族制度は勿論家族生活の後に發生したもので法律的社會的强制の形式で家族生活の內容に干涉して來ました。而も法律は何時の時代でもその時の支配階級擁護の爲に制定せられたものであり（併しながら濱口內閣の官吏減俸案は判檢事も矢張

り工場を解雇されて空しく職を漁りながら路上を彷徨する失業者と同じ階級にあることを暴露しました。）又社會的强制の約束も直接間接支配階級の文化的或は經濟的要求から自然的或は人爲的につくられたものでありました。だから階級的優越心を誇示したいといふ支配階級の生活要求を根幹として組立てられた資本主義社會の家族制度は到底被支配階級の生活要求と同一ではなかつたのであります。併しながら從來被支配階級は法律的社會的强制の下に嫌でも服從しなければならずそして一度服從の習慣が被支配階級である無產大衆の社會生活に根を張つた以上この約束に背くことは即ち名譽を毀ける所以とまでなつたのです。そこで無產階級の生活が無理だらけであつたといふこととなるのです。併し無產大衆のうちにはかうした矛盾から逃れやうとする力は無意識のうちに潛在しそれが前に擧げた經濟上、政治上、法律上或は思想上の社會的自然發生的現象に伴つて支配階級に根を置く家族制度は遂に崩壞するに至つたのであります。

かくして婦人は男子と共に綜合的一單位から男子同樣社會の一分子へと進み生活の爲には矢張り闘はねばならなくなりました。そして婦人の人格の自由と尊嚴は確立されて過去の

性的分業は廣い範圍に亘つて退化し體力に於ても性格に於ても智力に於ても或は勇氣に於ても極端なる男性化となつて現れ人類の精神生活上の二大機能のうち女性のものとして特種扱ひされて來た情的機能から男性の知的機能への再現となつたのであります。だから從來の殆ど宗敎化された女大學式婦德は今や全く影をひそめその爲に完全に封鎖されて來た性慾や戀愛觀の反動は現實に對する否定精神となつてかうした方面にも日本の女性が過去二千年未だ經驗しなかつた大飛躍を展開し、そこに新しい戀愛觀結婚觀が生れました。即ち結婚難時代から就職難時代への發展？　となり勞働市場に於る兩性鬪爭の展開となつたのであります。

我國で從來婦人の智的職業と云へば殆ど教師、醫者、記者に限られてゐました。併し昨年十二月內務省では社會局に一名の婦人監督官補を置きました。勿論その動機は婦人に期待するといふわけではなくジユネヴでの國際勞働會議で、我代表が某國代表から『纖維工業の盛んな日本には女工場監督官が凡そ何名位ゐるか？』といふ手痛い質問をされた申譯とあつてみれば些か情ない氣もするが兎に角仕官されたことは事實であり現に相當の成績を擧げてゐます。文部省では今年七

月三名の婦人監督官を任官しました。又前議會では辯護士法案改正に絡んで婦人辯護士が問題となりました。不幸にしてそれは實現の運になりませんでしたが司法當局では「婦人に期待するわけではないが婦人でも辯護士として構はぬではないか」といふ意向でありました。以上の諸職業が何れも男性の及ばぬ特長を具へてゐることは何人も拒み得ぬのでありませう。かくの如く官吏その他特種の職業で婦人に對する門戸の解放は、一般的にこれまで男子の獨占に委ねてあつた職業の分野を婦人にも適用し婦人職業の範圍も一層擴大する最も有利な條件となりました。かうして婦人が職業市場に進出し社會の一分子として獨立の生計を營むとすれば必然的に公の事件にも興味を持つことになります。自分の額に汗して織手を振つて取つた金が税金としてお上に取り上げられ、それが怪しげな機密費に使はれて疑獄の種となるとあつては到底我慢が出來るものではありません。政治上の事件は卽ち婦人自らの事件となつたのであります。政治上の利害關係はやがて己れの利害關係であることを知つたのであります。そこで從來夫である男子に委せてあつた社會上の地位を今や國家の一單位として婦人自ら主張しなければならなくなりました。だから公法上婦人を男子と同等に認めることは一向尙早ではないのであります。望月前内相の如く一部婦人の要求だから問題視しないと云ふならばそれは大きな間違ひであります。婦選運動と云へば、卽暴動とまで思はれた英國のサフラゼットも婦人の全人口に較べたならば極少部分の運動であります。

然るに世の婦選反對論者は婦人に選擧權を與へてもその權利を行使するのに無能力であると云ひます。選擧權を行使する能力の内容が若し現代の政治組織を明確に理解し時に刻々起る政治問題を自由に解剖批判して積極的に自己の意見を立て得ることを條件とするならば極めて少數の婦人否少數の專門政治家以外には選擧權の行使は出來ないことになります。立憲政治の運用にかうした高い程度の能力を必要とするならば代議制度は根底から覆つてしまひます。選擧者は受動的に各候補者の言論を聽いてその何れが眞理であるか合せて自己の見聞した各候補者の人格を比較對照してその何れに賴るべきかの判斷さへ誤らなかつたらそれで充分なのです。言葉を換へて云ふならば極く平凡な常識で足りるのであります。かうした心配はすでに普選實施の際試驗濟となつてゐます。多數無產階級の利害を少數有產階級の手に委任しておくことが不合理であると同樣に男子の理解が婦人そのものゝ要求と一致する筈はありません。婦人がこの社會的新形勢を背景として自ら自己の社會上の地位を主張することは余りにも當然であります。（完）



乳兒死亡と對策

村上賢三

近年我國の至る處で乳幼兒保護運動が盛んになつてきましたが、これは誠に喜ばしい事であります。

一八九二年にフランスの醫師ビュダン氏がパリで小兒保護運動をはじめてから未だ僅に三、四十年にしかならないが、今日歐米各國ともこの運動の立派な効果をあげてゐます。

歐洲諸國では殊に過去十數年に乳兒死亡の研究並に同死亡率低下の社會的、國家的努力が効を奏して乳兒死亡率は漸進的に下降してゐます。今日歐洲の諸文明國に於ては出生百につき乳兒死亡數は英國七・五、佛蘭西九・五、獨乙一二・一（自大正十年至大正十四年平均）であります。

然るに、我國に於けるこの期間の乳兒死亡は出生百につき一四乃至一九人の間で平均一五・九人であります。昭和二年には二九二、〇三四人が生後一ケ年日内に死亡してゐますが、我國では年々三十萬前後の乳兒が死亡してゐるのです。これは總死亡の約三割弱に當り、出生者の一割七分乃至二割に當ります。

私が茲に乳兒死亡と申しますのは、勿論滿一歲未滿の死亡を云ふのでありますが、若し乳兒のみならず五歲迄の乳兒の死亡をも加へるならば年々四。五十萬に達します。

かくの如く乳幼兒死亡の多い國は文明國中日本以外にはありません。

この高率な乳兒死亡を以て一部論者の主張する如く過剩人

口に對する自然調節と看る事が出來るでありませうか。「乳兒死亡は社會の安寧幸福及び吾々の有する衞生進步の最も鋭敏なる係數である。」また「乳兒死亡率は出生した乳兒に屬する家族の文化程度殊に婦人の文化程度の鋭敏なる尺度である。」との先人の言葉と事實とを以て容易にその誤謬を指摘する事が出來ます。

一國の將來はその國の乳兒死亡率の如何によつて卜する事が出來ると迄に云はるる今日かくの如き乳兒死亡の高率なる我國の現狀は誠に憂ふべきであります。

かかる高率なる乳兒死亡の原因は何によるでありませうか。この原因を明にする事はやがて乳兒死亡率を低下せしむべき方策樹立の鍵となるわけであります。

今「日本帝國死因統計」によつて全國の乳兒死亡の原因をみますと年々大同小異で、その死亡原因の第一位を占めてゐるものは畸形、先天性弱質、及び乳兒に固有なる疾患であります。この內、先天性弱質はその大部分を占めてゐます。

先天性弱質の原因は兩親の體質に關する事が最も大でありますから、この先天性弱質による乳兒死亡を減少せしめる爲には兩親の體質の改良を計らねばなりません。然しこれは一朝一夕には出來難い事であります。

先天性弱質の中にはその母の妊娠中の自覺並に保護の不足から來るものもあります。卽ち妊娠中の母の榮養、勞働、休養、睡眠等の如何は最もその胎兒の發育に關係するものでありますからこの原因によつて來るものは妊產婦の保護並に自覺を徹底せしめる事によつて防止し得るのであります。

第二の死亡原因は下痢及び腸炎で、これは夏季に多く、又人工榮養兒に多い。

第三の原因は肺炎及び氣管支肺炎でこれは冬季に多い。

以上の三原因によつて乳兒死亡總數の五割五分を占め、これに亞ぐものは腦膜炎、急性氣管支炎、脚氣、百日咳、胃の疾患等であります。

要するにこれ等の死亡原因中第一を除けば、すべて後天的に、生れて後に起る疾病によるものであります。

これ等後天的の疾病による乳兒死亡は社會に豫防的の自覺と施設が徹底するならば充分に豫防し得るものであります。

乳兒保護事業が理想に近く實施せられてゐるニユージランドでは乳兒死亡は出產百に付僅に三・七（一九二七年）であつて、しかもその大部分は先天性弱質によるもので、後天的に

豫防し得るものは極めて少數であります。

この事實は乳兒保護事業が完全に行はるるならば後天的の原因による乳兒死亡は極度迄に減少せしめ得る事を如實に物語るものであります。

今日一般に都市の乳兒死亡率は農村のそれよりも高率でありますが、これは現代の都市文明が人口の都會集中、貧富の甚だしい懸隔、婦人の職業的發展及び工場勞働婦人の增加等の爲に都市の乳兒の生命に及ぼす社會的害惡は農村よりも大であるからであります。

都市に於ける乳兒死亡病原は消化器病による事が多く、農村に於ては呼吸器病によるものが多い事は、今日多くの統計の示す處であります。これは都市生活に於ては、殊に產業都市に於ては、その社會の組織が產業中心であるが爲に、乳兒は授乳の機會少く、人工榮養の不自然なる哺育を受ける機會が多く、これによつて消化器病による死亡が多いのであります。尚これに加ふるに都市に於ける夏季住宅氣溫の上昇も消化器病死亡の重要なる一因をなしてゐます。

これに反して農村に於てはむしろ冬季における呼吸器の疾病に對する注意深い保護が與へられない爲に多くの乳兒が呼吸器病の爲に倒れてゐます。

然し乍ら農村に於ても農繁期とか養蠶期等の一日一刻を爭ふ忙しい時には產業都市に於けると同樣に哺乳の機會が屢々奪はれる不安があります。

幼ない子供を家に殘して仕事に行く事は親としてもどんなに氣づかいでありませう。然し一緒に連れて行つては働けないので、止むなく獨り殘して——或時は籠に入れ、或時は柱にしばりつけて——仕事に行く。

子供は大小便皆たれ流し、襁褓は不潔になつたまま、腹は減つてもお乳は與へられず半日乃至一日を泣き暮すのであります。

產業都市の婦人が年々家庭外勞働の機會多く、授乳の機會少く「哺乳の危機」にあると同樣に、農村に於ても自然榮養の可能性に對する保護は目下の乳兒死亡率低下に對し重要なる點であります。

エリスは「女性は新時代の母である。女子の教育は男性よりも一層緊密にして一層永久的なる關係をもつてゐる、故に大自然の眼からみれば女性は男性よりも一層重要な要素である。」と云つてゐるが、これは婦人の生活の核心が光輝ある母

性に存する事を是認しての事であつて、現代婦人の産業界への進出は果して、これと相一致するであらうか。

要之に眞の母性として〃自覺なく、又育兒に關する適確なる智識なき社會層の人々に對し、子女養育の眞意義を明にし、これを自覺せしむる事は乳兒死亡を低下せしむる上に最も必要であります。

子女を健全　養育する事それ自體がわれ〳〵自身の爲にも、家庭の爲にも、又國家、社會、民族の爲にも如何に意義あるかを、まづ自覺せしむべきであります。

然しこれにも增して重要なる事は乳幼兒保護に對する社會的施設の設置とこれの活用であります。

我國にも乳幼兒保護施設として兒童健康相談所もあり、托兒所もあり、牛乳配給所もあります。然し乍ら私は尙これ等の數も少く、且つ一般に利用せらるる事も少く、遺憾に思ふのであります。

云ふ迄もなく兒童健康相談所の本來の使命は「健康なる子供を如何にして健康に育て行くか」を相談し、指導する處であつて病兒を取扱ふ事は第二義的の事であります。兒童健康相談所は病氣の子供の行く處と考へてゐる人々が多いのであるまいか。

この點は一般の人々がもつとはつきりした考へを持つて、一層兒童健康相談所の活動を大ならしめ、その本來の使命を發揮せしめてほしいと思ふ。

托兒所の數も近來次第に多くなつてはきましたが、ともすると、托兒所を必要とする人々が住む地域に設けられずして、反つて無用視せられたり、又は幼稚園に近い傾向になつて眞の托兒所の使命を忘れる事は誠に悲しむべき事であります。農村に於て、常設でなくとも、農繁期托兒所を設ける事は目下の急務であります。大なる設備や、費用を必要とはしない。場所は寺を利用するなり、學校の一室を借りるなり、乃至は夜學校を臨時に用ひるなりして、五軒でも十軒でもの人々が互に交代して子供を世話し合ふ處から托兒所は生れ、成長して行くでありませう。托兒所の意義と必要を痛感するならば設置の道はいくらでもあると信じます。誰か作つてくれるだらう、なぞと云ふ考では百年河淸を待つと同じであります。乳兒死亡率を最も左右するものが、その社會的原因に存する事を思ふ時われ〳〵は社會的原因を除去すべき社會的保護施設の極めて必要なる事を痛感するのであります。



甲峽托兒所たより

平田のぶ

△

情なく見えるあなただが、私の健康、仕事の成績を案じてゐてくれる事をよく知つてゐるので、何よりもあなたへ手紙を書きたいと思ひ思ひしてゐるのですが、書く時がなかつたのです。『時がない』とは、『書く氣になる時』なんていふゼイタクな時ではなく、正眞正味の「時間」がなかつたのです。

朝は暗いうちに起きて、パタ〳〵とコンロに火を起して炊事をします。その頃からもうやつて來ろ子供達もあります。朝飯をかき込むとお荒神様へ出かけます。途々歌を唄つたり手拍手をうつたりしながら……それに誘はれて子供達はぞろ〳〵出て來ます。朝は冷たいので皆縮かんでゐますから竹やぶから枯枝を集めて來て焚火をしてあたります。私共は其間に廣い庭をはきます——昨日は學校へ行く大きい女の子供達が朝早く掃いてゐてくれました。——一日四十人の子守をして夕方電氣がついて、あたりが暗くなると野良から母達がぽつ〳〵歸る頃に子供を追ひ返します。實際追ひ歸すのです。追はないでは何時になつても子供達は歸らうとはしません。そんなに此處は子供達にとつて魅力を持つてゐます。

不馴な生活なので、勢力と時間とをかける割合には、ちつとも上手な料理は出來ません。でも夕食が濟む迄は自分の身體です。二人は、お互のヘマな手ぎはに腹をかゝへて笑つたり、子供の口まねをして笑つたり何の屈托もありません。米は、もちよりで、此一月に食べ切れんほど頂いてますし、野菜も毎日持つて來て下さるので、里いもの如きは大きなかごに山をなして、食つても食つても食ひ切れません。

笑つたり話したりしながらゆつくり夕食をやつてゐますと、もう學校子供達は誘ひに來ます。望みによつて處女の爲めに週二度、學兒の爲めに週三度夜學をやる事としてゐますが、あくことを知らぬ子供達は、その規定の日以外にも私共を誘ひ出して、歌を敎えろのお話しをしてくれのといひます。

早く切り上げる積りでもついおそくなります。又歸つて來ると青年達が待つてゐる事もあります。かうしてつい夜を更して了ひます。でも、一日日光を浴びつゝ空氣をすつてゐるせいか、健康です。髪なども五日に一度位しか結ひ替へられません。此間の夜は惠坊(平田氏の子供です。四歳)がゐなくなつた夢をみて、自分の泣き聲に目をさましましたが、その鮮一枚のはがきを留守宅に書き送る暇さへないのです。

今日は幸——但しお百姓達には憎むべき——雨が降りましたので、朝はゆつくり食

事をして、かうしてあなたへの手紙も書いてゐます。でも中堀さんは處女達に引張られて、手藝を敎えてゐるやうです。

△

こちらの村人と充分の打合せをせずに責任者が勝手に話しを進めて私に交渉があり私は、それを眞に受けて、本を買つたり、幼稚園や托兒所を參觀して歩いたり、とう〳〵身錢を切て一緒にやつて下さる人迄もお伴れすることにして、さてやつて來てみると、村の人は何も知らない。さういふ話しはあつたが、今年は金もなし、場所もないから來年からでもといふ氣だつたといふのです。其上その責任者は、私がこちらへ來る數日前に上京したきりまだ歸つて來ぬといふ話しなんです。全く狐につまゝれた樣な有樣です。だが、一旦かうして來た以上、おめ〳〵と歸る氣にはなれません。人の軒下でも荒寺の庭でもいゝ。寄つて來る子供達を集めてやつて歸る。さうして農村の母達に托兒所は、かくも簡易に出來、そして母も子も助かるといふ事を知らせたいといふ意氣込みでした。數日あちこち泊り歩いてゐるうちに責任者が歸つて來ました。然し、彼は、前述の理由でどうせ今年は成立する見込みはないから一日も早く歸京してくれといひました。然し私は、母達に逢はずに歸る事は、出來ないと頑張りました。それは此處へ私が來やうと決心した原因は勿論・現代の社會問題として最大重要性のある農村問題を研究し又、文化に遲れ勝ちな農村婦人の啓蒙をしたい等々といふ樣な大それた願もないではありませんでしたが一番强く私を動かしたのは、何んといつても私のセンチメンタリズムであつた事を白狀しなくてはなりません。貧乏で子澤山だつた亡母の一生涯のあの勞苦は、今も猶痛いほど私の胸をつき、今猶農村に生きてゐる多くの母達の上を他事(ひとごと)として考へさせません。だが日々のたつきにも事かき勝な今の私共の分才として、金にもならぬ此仕事を買つて出るとはさすがに娘達に大きな顏で云へませんでした。丁度親類からの來客があつて、一杯きこしめした元氣で、

「惠坊を放つて四十日も家を明けるつていふ事たア人の母のする事かどうか知らぬだが、私は、惠坊一人の事だけ考へてられないんだ。私のおふくろは一生涯子供の爲めに苦勞し通して死んだんだよ。ね。ちつたア安氣にもさせてやりたかつたが仕方がない。だが、死んだおふくろが、まだ農村へ行けば、あつちにもこつちにも生きて同じ苦勞してゐるのだ。私は、もう一度いゝ子守になつておふくろに孝行してやりたい。ね行かしてくれよ。去年はおふくろの二十五年だつたが墓詣りもやらせなんだのだから、ね、行かしてくれよ。これが母ちやんの病氣だと諦めてくれよ……」

私は手をついて娘達に賴んだのでした。かうしてやつて來た私にしてみれば、せめて、母達丈にでも逢つて歸りたい。逢はずには歸れないのでした。そして遂に逢ひました。そして、金もなく場所もなければこそ私は來たのだ。金が充分なら、何も私がやつて來るにはあたらないことを話しまし

た。母達は感動し泣いてくれました。母の心は母には容易に通じます。

『先生さんにはえらう氣の毒ぢや、ぢやどうぞおたのもうしいんす……』

そして私の願ふ托兒所は初める事になりました。

△

連日降りつゞいた雨の晴れた半日、二十幾人の父達はお荒神樣の庭に集つて來て鋸から切出した青竹で棹登を、松の木にはブランコを、むしろで風除けを（甲州盆地は八ケ岳颪がひどいのです）板を持つて來てシーソーを作つたりしてくれました。處女達も障子を貼りかへたり、蠅糞のついた畫紙を持つて來て壁を貼つたり、二十年近くも拂はない天井の煤拂ひしたりしてくれました。母達は如何にも嬉しさうにこ〱と笑つて見に來ます。子供達は、もうはしやぎ切つて居ります。其翌日からはよく晴れて皆野良に出ました。四十人近い子供達は集つて來ました。一歳以下乳のみ子は子守がついてゐるか、野良働きの出來ぬ老人が連れて來ます。よち〱歩く樣な子供も五六人ありますが、大がい五六歳の兄姉が一緒につれて來ます。お腹入（お八つの方言）は午前はかはる〲さつま芋をふかして、午後は一緒に買つたおかしを與へます（一人當一錢五厘見當）學校子供も放課後はいゝ遊び場にして寄つて來ます。

△

此處は大鎌田村字久保中島で戸數三十八二丁程の間に一かたまりになつてゐて、お荒神樣は西の端にあるのです。三十八戸のうち三十二戸は農民組合員でその組合が托兒所の主催者なんですが、子供のうちには組合員以外の家からも來てゐます。三十八戸のうち二十戸迄は同姓の石原なんですが引つり引つぱり親類同志でそれだけに、一層親しいわけです。

△

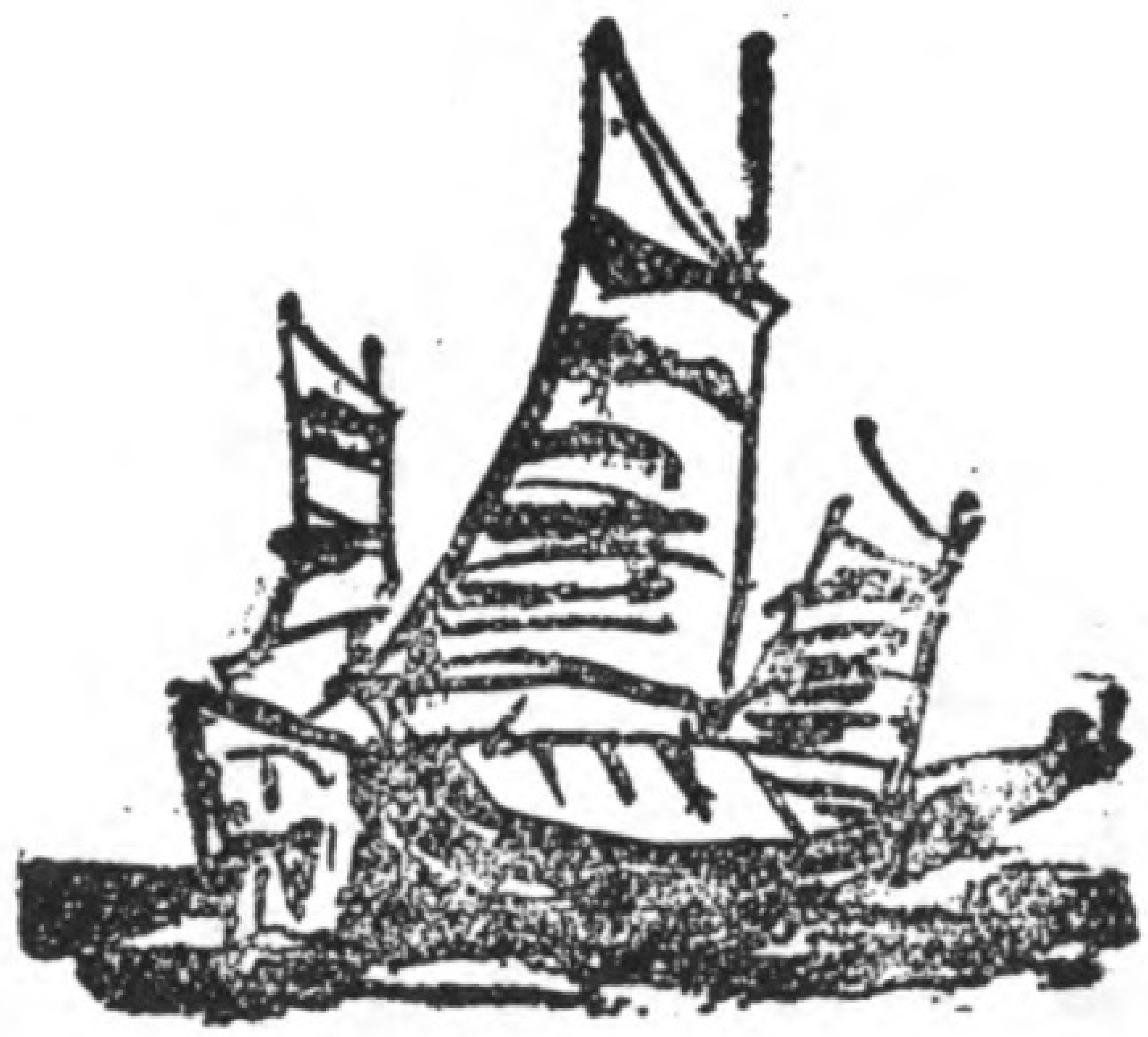
今年は秋に雨降が續いて野良仕事が遲れましたので母達は隨分忙しくそれ丈托兒所は調法がられて居ります。でもほんとに忙しいのは春から夏、養蠶と田植とが一時に來る時です。

『來春はトタン屋根でもいゝから公開堂を立ててエもんだ。そしたらこんな不自由はさせんで來春も來てくんせエ……』

だが、來年は誰か外の方に來てもらひませう。此處での私の仕事はすみましたから。もし來年も出られる樣でしたら、まだ托兒所の出來てない所へ行つて初めませう。

中堀さんは此處の人氣を一身に背負つてゐます。若くて快活で無邪氣なので處女や子供から慕はれてゐます。もし今後もかういふ仕事に出る時はかういふ方に一緒に來て頂きませうよ。私一人では倒立ちしたつてこんな好成績を上げる事は出來ませんでした。いゝ人を御推薦下すつた小島さんに厚く感謝してゐると御傳へ下さいまし。今日の午後は甲府へ買出しに行きます。色紙一枚だつて此處にはないんですからね。甲府まで一里半。此の手紙も甲府で出しませう。

むめお樣　　　　のぶよ



この町の商品（創作）

葵イツ子

一

二人とも、海の中のそれを凝然と見て居た。チョロに乘つて居る女達は、皆何か喋舌り乍ら平氣らしくなつて居る。だがその濃い白粉は、その派手な着物は、それが皆、陰慘な營業の目的で、强ひて用ひた惡魔的の粉飾では無いか、何等、彼女の爲に、その青春を輝かせるもので無いのをどうする。彼女等は公娼なのだ、全く疲弊の底から轉がり出た生命の切れつ端しなのだ。

家の中で無くて、こんな港の水の上にこの肉の町を延長するのは醜態の極致だ。

川上と松浦は、顔を見合せた。松浦は

「呆れたッ！」

と嘆息するやうな聲を出した。

「全く酷い」

と川上も小さく言つた。

沖の方を見ると、澤山な船が通つてゆく。そしてこの港を素通りが出來なくつて、此方へ集つて來る船が澤山にあつた。若松から大阪へ石炭を積んで通ふ途中、水の上の寂寞は、糸崎の港に好意を持たずには居られない。

さうして港へ迷ひ込んで來る船を、急いで捕へやうとチョロが漕ぎ出してゆく。チョロは小船で沖を行く爲に造つたも

のでは無かつた。大分近附くと、まだ船の止まり切らぬうちに、もう女達は向ふの船へ手を掛けて、巧みに乗り込む。最初の船へは六人の女が登つて行つたが、船員が五人より居なかつたので、一番後から登つた女は降りて了つた。そしてそのチョロはすぐ他の船へ漕ぎ附けて、彼女はまた乗り込んだ。

「もう澤山だ、歸らうじやないか」

と松浦が言つた。

「あゝ酷いことを遣るところだね」

「僕も噂は聞いて居たが……よくこんなことをして居られたものだ」

　二人は川上の小父の住居の方へ歸つた。二人は今朝この町へ着いたばかりで、小父の家が貸座敷業であることが、厭だつたが、二三日泊るつもりで居た。川上は、

「小父のやつてることが、彌よ嫌ひになつた」

「さうだらう……僕はうんと言つてやる」

　小父の家へ歸ると松浦は小父に向つて一時間ばかり廢娼の必要を説いたが、小父は

「もう少し年を老つて、世間で苦勞してから話に來てみなさい。金を儲へるには生やさしいことでは行かぬといふことがお前さん方ではまだ判りはせん」

「そんなことは問題外です、實に人間を商品にするといふことは」

「なに、政府でちやんと許しとる。それが何で惡るからう」

「判らんね、こんな處へ泊るのも厭やになつた。もう歸る……川上君、失禮する」

　川上は、結局その方がよいと思つた。考へてみると、自分も殘りたくなくなつた。それで小父に、

「僕も、早く歸りたい用もありますから、……では松浦君と一緒に行きます」

　小父は、

「ふふん」

　と言つて引留めはしなかつた。

それでも、仕度をして出かける時になつたら、小母が來て

「小父さんが少し話があると言つてなさるから、お前だけ、ちよつと彼方へ行つておいで」

　と言つた。行つてみると、

「お前も大分長い間仕事が無いさうじやが、何か纏つたこと

をやらんと不可ん、どうだ、糸崎で住んでみんか、寫眞屋でも遣つてみたらどうだらう。俺が元手を出して遣つてもいゝなあ、去年お前の家へ行つた時に撮つて呉れたあれを見ると、仲々玄人としても上等の方だらう」

「有難いのですが、今直ぐといふ譯にも行きませんから」

「それはまあさうだ、考へてみて置いたがいゝ」

それで小父に別れて、松浦と二人で直ぐ驛へ出た。

二

あれから一年餘りになる。二三日前から、あの小父の言つて呉れた寫眞屋にでもならうかと考へたりして居るが、然し、あんな町へは行きたくなかつた。

川上は此頃では疲れ果てゝ居た。就職難はいつまで經つても解決されなかつた。到頭兄の家の居候になつて了つたが、段々に辛らく感じられて來た。兄は朝出勤して了ふが、嫂が終日針仕事をして、時には徹夜してゐることもあるのを見ると、自分といふ負擔を掛けて居るのが苦しいことであつた。

晝の食事が濟むと嫂は直ぐに縫物を手にして居た。川上は

「この着物を、初めには皆嫂さんのものかと思つて、女の人は澤山に着物が要るなと思ひましたよ」

「さう、さうだといゝのに」

川上はまた言つた。

「こんな田舍でも隨分綺麗な着物を着る人が澤山にあるのですね」

「あらさうじやないわ」

「どうして」

「これねえ、娘達が娼妓に賣られて行く時に人買ひがその娘にこの着物を着せて、伴れてゆくのださうです」

「そんなものでしたか」

艶やかな絹の布が、何か急に悲痛なものに思はれて來た。

「私も、こんなものは縫ひたくないと思つたりするけれど、でも矢張りね、仕方が無いわ」

川上はまた刺戟されて、それを寫眞屋のことへ移して行つた。

「嫂さん、僕も糸崎の小父さんの世話になつて寫眞屋をやる話があるんですが、氣が進まんので困つて居たんだが」

「まあ氣の向かないことしなくつても可いじやないの」

その夕方、兄が歸ると相談して、直ぐに糸崎へ手紙で寫眞屋の件を御願ひしますと書いた。

三

小父からは直ぐ返事があつて、いつ來てもよいといふことであつた。だが會憎く脚氣で少し出掛けるのは無理なので、其儘また一ケ月位を兄の家で暮して、そして漸く糸崎へ行つた。行つて三日の後であつた。昭和二年七月三十一日に、糸崎は、木ノ江。めばるの兩港と共に公娼の船を出すことを禁止せられた。

川上は喜んだが小父は不景氣になるだらうと言つた。

海の上では、石炭船はもう糸崎を無視して、遠い沖の方を通り過ぎて了ふ。町は次第に憂欝になつて、方々に閉店するのが見へるやうになつた。

勿論、小父の營業にも響いたし、川上が新たに寫眞屋を初めるにも適しないから、それも殆ど無期の延期をせられたのである。

川上はまた此處でも居候になつて居たくない、どういふ方針を樹てるべきか、更に考へてみるやうになつた。小父が來て

「どうだ、この前來た時に、お前の伴れて來た奴を呼んで吳れんか」見ると小父は眞顔である。

「松浦君をですか」と反問する。

「そんな名だつたなあ、彼奴は生意義で、こんな時に役に立ちさうじや」

「どうする心算です……あの男を呼んでみて」

「船が禁止になつたのはなあ、全く怪しからん、警察が惡い。社會運動でもする奴に賴んで、一つ官憲糾彈の演說會でも演らさうじやないか」

「さうですか」

そんな手紙は書きたくはない、然し、小父にこんな營業をしてゐるのを反省させるには、もう一度でも松浦と協力して話してみると可いとも思つた。

四

町長の家へ、其夜、一番先に來た貸座敷の盛華樓の主人が、町長と二人で碁を打つた。打ち乍らよく話をする。町長が、

「學校の方の例の件も、全く持て餘して居りましたが、貴方

の御仁俠で、實に立派にして頂いて感謝しますなあ」
「その、世の中は金ですからなあ、全く」
　盛華樓の脂肪過多な腕は、膝の上で傲慢に突張る。——何と言つても、遊廓の勢力は大きいぞツ、町で何かの寄附行爲は、遊廓側で承諾をせんと成立しない有樣だ、どうた——といふ風にする。
　郵便局長が這入つて來た。それから榮樓、錦秋樓と遊廓の主人達が集つた。
　町長はまだ、盛華樓の相手を止めることが出來なかつた。

　川上の小父の榮樓の主人は、錦秋樓に話した。
「先日のお話ですが、社會運動をやつてゐるのを呼ばせるやうにしましたが、どうも、……貸座敷業者の爲に、僕等は利用されんぞ、それに怪しいじやないか、この金は何だ、言つてみろといふ調子で……甚だ、まあ厄介でした」
「それは御苦勞樣で、どうでせう、他にはそんな男は見當りませんか」
「もう一人二人あるやうですが、もつと八釜しいさうで」
　町長が碁盤を離れて來た。
「それは贊成出來ませんね、此の際さういふことを遣らせるとです、後へその運動の根を殘して油斷がなりません、是非他の方法を考へて頂かんと困ります」
「御尤も、またストライキといふやうなものを植へに來られると困ります」と局長も言つた。
　それから彼等は酒を飮んだ、そして協議の結果、明日は皆で縣×に行つて警××長に面會して、何とか妥協を講じやうといふことになつた。
　糸崎の町は甦つた。何處も賑やかで、開業する店なども見へて來た。
　沖を通る船が、再びこの港へ訪れる日が來たのであつた。だが、それは、公娼の船がまた許可になつたからである。
　この禁止を解かれるには交換條件があつた。それは秋の×會議員の選擧の時に××會の公認候補を應援して吳れぬかといふことであつた。互ひに希望通りにせられた。
　このことは、川上はまた脚氣で、兄の家へ歸つて居る時に聞いた。町の繁榮を想像すると、その半面の問題が、彼の心に「行け」と呼びかける。

手紙に代へて巻末に記す

むめお

年末號の餘白を私に貰つて讀者のみな樣にお便りを書くことにしました。

ことしはわが職業婦人社にとつて憶ひ出多い一年でありました。私にとつても、感銘深い年だつたといはねばなりません。

私が、雜誌(婦人運動)の上に私らしい色どりを餘計に入れることにしたのが十月。幸にしてこの變革は多數の讀者の贊同を得て、日に幾通となき激勵の手紙や喜びのたよりが私のテーブルの上にまたゝく間に堆積した程でした。

さういふ手紙に愛撫されはげまされつゝ、秋に入つての私の働きつぷりと云つたら――全く自分で自分が小氣味よくてならないほどの快速力でした。

「私のこの元氣を見てくれ」私は心の中でから呟きつゝ讀者の誰れ彼れを思ひ出してゐたり、職業婦人社の發展を心から望んでゐて下さる先輩諸氏の顏を描いてゐたりしい〱益々熱するのでした。その勇氣で私たちの仕事は、ぐん〱伸びて行きました。

園さんを初め、私を手傳つてくれてゐる人がこの頃ほど調子よく氣心の揃つたことは珍しい。殆んど十年振りに、私は自分の仕事の上に心から落付き寛ろぐことが出來てゐると云つていゝでありませう。

落付けない心で仕事に引ずられ、幾人もの人がちぐはぐな心で一つの仕事の上を引つぱり合つてゐる氣持は實にたまらないものです。人の少ない婦人運動の仕事では、それは避けられぬ惱みであるし、多く婦人運動家たちはこの惱みをなやみとしつゝその上に仕事をもり育てゝ苦鬪してゐるのでありますが、幸にして私は今日のこの氣やすさを惠まれました。怠けてなどゐられませうか。

うちの贊助員で觀相の大家X氏は云ひました。「商賣するのには商人の相がある。社會運動のやうな特種な世界に進むのに骨相を無視してはいけない」と。氏に云はせると、私はかういふ仕事に携はるのにまことに誂へ向きないゝ骨相をしてゐるのださうです。そして、今、私と仕事の上で勞を分け合つて呉れてゐる人たちも、星の數ほどある澤山な女の中で、折紙をつけていゝと診斷されたのでした。この調子で職業婦人社は急速な發展をとげられることゝ思はれます。

迷信に從ふわけではありませんが――と云つたら觀相はあくまで科學的だ、とX氏に反駁されるだらうけれども――とにかく、こんな仕事を進めてゆくのに何より肝心なのは人の撰擇、二に金子。です。金子のない私たちにとつては一層人の撰擇に重要さがあるわけでありませう。これで金子が有つたら鬼に金棒と云ふべきです。

來年はぜひ、經濟的な安定も立てゝ仕事の上に專進したいと希つてゐます。みなさんで助けてほしい。金子のことに追ひまわされて精力の大半が奪はれゐるなんて、殘念至極です。

「奧さんを中心にして集つてゐる人たちは、どつち向いても地味な人ばかりね」と、私はまわりから屢々聞くのですが、ほんとうの婦人運動といふものは、街頭にわめくやうな態度や、チカ〱と電のやうに時代の尖端をゆくやり方では決して出來るものでないと、私は信じてゐます。

私は一隅に咲く野の花。

花の中の花。

これは或人が私のためにうたつて呉れた歌ですが、とにかく

婦人團體として私たちの消費組合協會や職業婦人協會のやうに地道に進むものも一つは無くてならないと私は思ひます。その代り、云ひ出したらアトへは引かないのです。ほとばしる實感から、土を盛りあげて芽を出し葉を出す様な勢ひでこみ上げて來る欲求のまゝに運動を進めてゆくのですから、底つ力强くぐん／＼推してゆくばかりです。

宣傳倒れな實質なき婦人團體の多い今の社會で、私たちの働くべき部署は非常に廣いと思ひます。仕事も實に多いことを思はずにゐられません。

しつかりしたいゝ仲間があちこちに澤山にほしいものであります。

山梨縣の或る農村へ托兒所設置のための手傳ひに行つてゐる平田さんから手紙が來ました。(五四頁)感激に充ちて懸命に子供相手に働いてゐるあの人の姿が目にみえる様で讀みつゝ私は眼がしらが熱くなるのでした。

「自分の子供を放つて」おいて外の子供のお守りに出かけることは「人の母のすることかどうか知らぬ」けれど「澤山の子供を生んで子供のために一生涯苦勞をしつゞけて死んだ母親のことを思ふと、自分の子供のことにばかり、かゝづらつてゐられぬ。今の世の中には自分の母親のやうに子供のための苦勞に一生涯をすりへらしてゐる女が澤山にある！　私はもう一度子守りになつてお母さんに孝行がしたかつたのだ」と云つてゐる平田さんの心。

こんなに時々家をルスにして講演旅行に出かける私の子供たちでも、どうかした調子にひどく私と離れたがらなくて泣いて困ることがあります。然し私は、子供たちが早く私の携つてゐる仕事について子供心にも理解をもつて吳れて、この悲しみを悲しみとせず、かういふ仕事の上に母とし、子として協心協力して吳れるやうな日が來てほしいと希つてゐるのですが、せめて、世の全ての母たちが――將來母になる若き婦人たちも勿論のこと――個人的な私愛を愛の全部とせず、つねに社會全體の福祉の上に自分たち個人の持つてゐる愛を生かし、伸ばし、進めてゆくやうにしたいものだと思ふのです。戀愛も、友愛も、夫婦の愛も子供たちへの愛も、かういふ意味でつねに超個人的なより廣い愛へ生長させてゆくべきであります。

今年は地方講演が多うございました。東京の本部をルスにしすぎた罪は覿面で、あくせくと大分おひまわされて暮しましたが、講演旅行は益々多くなることゝ思ひます。私たちの進まうとする道に共鳴して下さる人がどん／＼殖えつゝありますから然し、單に云ひつぱなし、聞き流しの講演に終らせず、しやべる者と聞く者とが一つになつていつも心が通ひ合ふやうに組織をかたくして育てゝゆきたいものだと思ひます。

東京にゐては私は、いはゆる晝飯行脚をやつてゐますが、あちこちの職業婦人諸氏と會食しながら知らず／＼の内に親しさが増してゆくのです。私のやうに口下手の人間でも、云はうとする心は云はずとも通じてお互ひにいゝ仲間になつてゆくことが出來てゐます。表面的にこれと云ふ活動をせずとも、さうしていゝ仲間になり合つて力づけられ敎へられる處があつたら私たちの意圖するところの大半は成つたものと云つていゝのでありますもの。

「職業婦人の家」の募金が案外はかどらずお恥しく思ひます。約束の濟んだ分は可なり多額なのですが金子ばかりは自分の手に握るまでは所有權がないのですから一層努めるより外ないのです。夏頃六ケ月ばかりいろんな事情から募金に費やす餘裕を心にも時間的にももつてゐなかつたのでこの頃漸く再び初めたところです。來春までには完成させる自信をもつてゐますから御安心下さい。どうぞ又一層お助け下さい。

編輯後記

園　かづえ

今年は編輯する者が、幾人か、代つたり、編輯方針を改めたりして、いろ〳〵動搖が多かつたので、不滿な點も可成有つたと思ひます。

此度こそはと、幾度か意氣込んでゐるうちに、もう年末號にまでなつて了つて、この三四ケ月は夢中で、かけ足して來た樣です。

然し其の間にも、私は非常に多くの事を覺えて、或は敎へられて、いゝ勉强をしました。

昭和五年よ幸あれ。來年は、きつと、こう運が待つてゝ呉れる樣な氣がする。職業婦人社が、永い間の苦難時代を過ぎて飛躍する年だといふ氣がする。

婦人消費組合協會の方の仕事も順調に、いつてるし職業婦人協會の方も會報が出來てこれから益々、團結した力を適當な方向へ伸ばしてゆくでせう。

それから皆さんの作品を、もつとどし〳〵お送り下さい。お手紙を通じて、或は直接お逢ひして「婦人運動」をめぐる多くの方々との交渉が深まるに從ひ、いゝ素質に惠まれた、いゝ情熱を持つてゐらつしやる女性たちが隨所に見受けるのですが多くは日常の困難な環境の故に、伸るべき才能も阻まれ勝ちで、そのまゝに萎縮して了ふのを殘念に思ひます。

最早、甘やかされた、目かくしされた生活から踏み出して來た以上、現在の女性たちの行く手には、もう一と息も、二息も戰かひ拔かねばならない餘地がありませう。眞實に生きてゆかうとすれば當然負はねばならない頭上の重壓に抗して、何處までも、はね返そうとする强さを持ちませう。

私達のなかまは、皆めい〳〵が、田で畑で、工場で、事務室で、街頭で、それ〴〵働いております。働らく女です、そして何と多數なことでせう。

愛讀者の集り

お知らせ

本年は永いこと、會合の機會を失つてゐましたが、久々で皆樣と、お會ひしたいと思ひます。どうぞ、どなたもおいで下さいませ。

なほ此の會合をづつと續け各方面に渡る社會事象に就いて初歩的なものから、御一緒に研究したり、批判し合つたりしてゆきたうございます。

期日　昭和四年十二月十八日(水曜日)(午後六時)

場所　職業婦人社に於いて(市電市ケ谷見附下車)

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢(郵税一錢)
半年分　壹圓四十錢
壹年分　貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和四年十一月三十日納本
昭和四年十二月一日發行
東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行編輯兼印刷者　奥　むめお
東京市牛込區市ケ谷本村町四
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番


御贈答には
松屋の商品券
「松屋の商品券」は流行の呉服、雑貨、食料品を始め総ゆる清新な百貨をお求めになれますのでどちらでも喜ばれます何卒御用命の程願上げます
―共通―
銀座　松屋
横濱　鶴屋
今川橋　家庭部
大森　賣店



賀川豊彦

今日は、婦人の街頭進出時代である。事務室に、商店に、病院に、電車自動車の中に、交換室に、教室に、工場に、食堂に、ありとあらゆる領域に働く婦人の影をみぬといふ處はない程である。

然し、職業婦人諸姉！

あなた方を街頭へ、職業生活へと追ひやつた力は何であらうか。貧乏か？　家庭にくすぶつてゐたんでは詰らない、といふ自由意志からか？

むろん、さういふ個人的な動機が可なり直接の原因をなしたことゝ思ふのであるが、今日資本主義社會では、成べく安上りで、大抵のことに泣寢入りをする憶病者の女が營業の採算上最も便利で重寶だといふ打算から、大いに女の職業的進出を歡迎しそゝのかしてゐる、といふこの事實をはつきり知らねばならぬ。

そこで結束してつねに勤務條件の改善に努め、母性としての婦人の權利を常に守らねばならぬのである。

◆會報を守れ！

職業婦人協會の愛（いと）し兒がやうやくこゝに生れ出ました。お姉さま方の丹精で愈々元氣に、健かに可愛らしく、内容充實したものに育てゝやつて下さい。

創刊第一號から、寄稿して下さつて半分ものせ切れなかつたなんて、口惜しくて仕やうがありません。もつと會員を殖やして經濟上の餘力を早くつけて立派にしませう。

◆

病氣の方、お怪我をなさつた方は職業婦人協會發行特別診察券を請求して下さい。（妊娠調節も）各方面の專門家に依頼して會員に限り、充分便宜を計つて頂くやうにしてありますから利用して下さい。

病氣を未然に防ぐために、健康診斷をして貰ふことは一層必要です。實行しませう。

◆

會員になれない事情の方に、二錢フンパツして本紙を買つて貰つて下さい。本紙を賣るばかりでなく、婦人消費組合協會の供給部の扱品も成るべく買つて下さい。現在品として萬年筆、毛糸、キャラコ、脱脂綿、足袋、月經帶があります。儲けは全部共濟金として會員の吉凶時に贈ります。

會員を多くし、協會の扱品を賣り擴めることに依つて私たちの團結力をかためませう。

◆親睦より團結へ！

なぜか

宮岡俊子

一刻の出來事に長い人生の事を種々考へさせられた病院生活の如何なるものかとは入院看者でなければ知る事は出來ない。まして私達プロレタリヤの病院生活は尙更の事と思ふ。

職業婦人のこんなに病氣にならなければならない理由を種々考へて悲しくなつた考へて居るうちに熱が上り出したから止めた。退院して早速奥女史に婦人の保健に付いて今迄より以上お骨折り願ひたいと唯勝手に胸の虫がきめて熱もどうやら下りかゝつた。

自動車に働く女車掌、机に働く女事務員いづれもの職業婦人が健康に見えて八分通り不健康である事、無理をして毎日働いて居る婦人が遂に倒れて病院へ來た時は二度と再び立たれぬ重病となつて居る事等々を知つて其の働かなければならない裏面を思ふと、見る事知る事がみな、いたましい事のみである。入院後三日過ぎた午後の三時看護婦の慌しい足音にうつら々々と寝む氣のさした私はパット目を見開いた。それは全身大火傷の可愛い幼子、見るものはその痛ましい姿に目を伏せずには居られない四才位の女の子である。丁度私のベットの向前であつた。子供の母と祖母が付き切りでそれに醫師と看護婦ですき間も無くベッドをかこんで居る。父なる人は病室外へ醫師に呼ばれて出て行つた!!

母親を始、家中の者は狂氣の如く看病したが遂に午後六時小さき魂は去つてしまつた。醫師のあらゆる手も今はむなしく盡きて室を去つた。看護婦も去つた跡はシーンとした中にすゝりなく聲のみ、母親は冷たくなつた無き骸をいだき起しておか

■……おたより

豐澤たず氏（長野より）

秋も深みました無感覺な魂を持つた工場の中にも秋晴れが心良い風を送つてくれます職業婦人社の皆様何時も御奮鬪下さる事を心から感謝致しております私も横着してゐて誌代をお送り致さなかつた事をほんとに申し譯もありません無產婦人の力で築いてゐる社へ對して何時も誌代をと焦つてみてもやはり工場生活者には思ふ樣にお金のくめんが付きません、工場生活から田園へ田園から工場へと又追ひ歸されてきました。村の人達、大部分からは製糸工女と乞食か何かの樣にそれが親が言つて聞かせるので小さい子供達までが人並に成つて卑下して視ます全く工場の姉妹達はさうした視線をさけやうとして色々修養會だの何だのと言つては新らしい會をこしらへますけれどもそれが何の役に立ちませう、さうした中に自然ひがんで魂迄がゆがんでしまふのではないかと思ひます、そして卑しい遊び

あさんが悪かつた澄ちやんや〻〻〻〻〻〻……。其の聲もかすれきつて遂に其子の胸へ伏してしまつた。私も共にもらひ泣きをした。

母親は私達と同じ様に職業婦人である。常に留守勝の母親……。澄ちやんはおでんやへ遊びに行つて其 鍋をかぶつたのださうだが全身繃帶の其の哀れな我子の姿に職業を持つ母親は如何なる感があつた事かと私は色々考へ續けた。職業婦人として子供を持つ時は其の責任の二重な事、そしてあまりにも婦人の一般責任、色々な事情の下に働く内外の勞苦の重過ぎる事を考へさせられる。

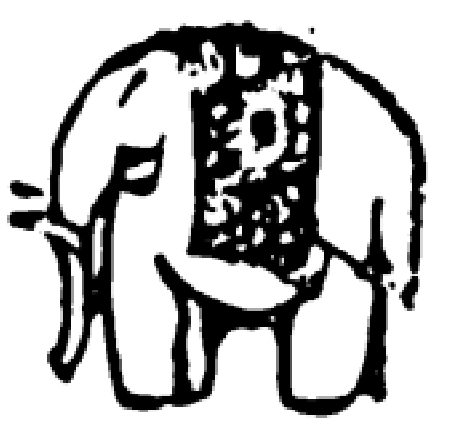
或る一つの課題を社會に投げかけて去つた小さい魂。骸はその夜八時、白衣の婦人に抱かれて屍舍へ送られた。後からゆく父親、母親、祖父母の姿――然し、明日は働かねばならない、稼がねばならない、その父……母……である。職業婦人は強く強く生きて其の子孫を殘す事に付いて、より以上の注意をしなければならない。

私たち働らく女はいつ迄も、いつの社會になつてもこの二重の重い責任を持たなければならないのか？　なぜか、其の言葉はいつもいつも私の心の中で動く、

森川津奈

サラリーマンの生活問題は、勞働問題、農村問題に優るとも劣らぬ程の難しい社會問題たることは疑ふ餘地はありますまい、それなのにそれの運動が何故表面化されて來ないのでせう、インテリゲンチャーの惱みとでも申しませうか、外には無産階級に共鳴し、内には有産階級を羨み、其のヂレンマに陷り敢然たる態度と、はつきりした自己の立場を把持し得ない爲ではないでせうか、丁度それと同じ様に、私達職業婦人の運動も、社會に多數の職業婦人を送り出して居り乍らそれが限られた一部の人の奔走のみに終り、未だに進出の遲々たる原因も、そこにあるのではないでせうか。

にあき足らなく成るのではないかと思ひます、小學校の先生達は何と言つても女子補習の生徒が大部分ゐますので職業に貴賤はないの皆さんが國の土臺だの戰士だのと言つて馬鹿にうまい事を言つてゐても其の裏面には女工達なんかと言ふ嘲笑を浴びせかけてゐるんですから全くしやくにさわつてしまひます、社會改造は小さい所からひつくり返しても一度たゝき上げて行かなければならぬと思ひます途中から飛び込んで手を出しても思ふ様にならないものです、根本から改造して私達はそれへの突進力を用意せねばならぬと思つて一つでも何かつかまふと用意すきさへあれば本にかじり附いてゐますけれども獨學はどんなに進んだとて知れてゐます、でも實生活に直面して行くのだから其處からは眞理が生れ出るだらうと思ひます、夏頃だつたかもうしばらく婦人運動とお別れしてゐるので此の頃の様子は知りませんが、奥さん初め汗みどろに成つて働いてゐられる事がうかゞはれてほんとに無代で讀んでゐるのが申し



彼女に誓ふ

堅山史子

やさしかつた彼女ハ
快活たつた彼女、
たつた二十才の若さで
死んでしまつた彼女、

冷めたい夕、キの上に立つて
一日十時間働いた彼女
はげしいその電話交換に
彼女は頭をいためた
咽喉をいため、肺をいためた
そして彼女は死んでしまつた
おゝ　泣くな嘆くな　彼女よ
その復讐は誰がする？
おゝ　私達姉妹は

歌や詩や俳句を送つて下さい

秋

後藤美浪

灯の下に頁をくればひえ〴〵と
指先よりぞ秋はしみ入る
星のごと光もつ花の一つあれ
など〻願ひぬ秋の一日に
うす紅のコスモスよ汝に心ありや
わが吐息にふるふ悲しさ
思ふ事あまりに多しこの秋は
湖の蒼きに心痛むも
山と水と草木丈がほゝゑみて
我を迎ふるこの秋淋し

磯崎松葉

文机に花をかざりて今日一日
心静かに書をよみにけり

譯無いとそればかり思つております した、私達は勉強します。しめつぽい湯氣の中にぐつしよりぬれくさつてゐて何故自覺しないかと惰なく成ります。

雄谷・濟子氏（東京）

今度研究科を出まして就職いたしましたがまだ〳〵勉強の必要もございますしこれからは落ついて修業いたしたいと存じます運動の方にも、いろ〳〵お導き頂きたうございます。何處をどう歩いて行つてよいやら解らない乍ら熱だけはいつぱいに持つております、理論方面も研究したいし、いろ〳〵手をとつて歩ましていたゞかなければならない多くのものを抱いております。

それから職業婦人社のお集まりは、是非夜になすつて下さいませ、晝間ですとどうしても務めの方を投げなければなりませんので思ふようにゆきませんので。讀者たちの意見を述べる機會としまして會合を幾度も開いて、頂きたうございます。多くの方々とお親しくなれて種々協力してゆく上に、大そうよいと思ひます。

その骸に誓はう、
かうして倒れた彼女らに
私達はその復讐を誓はう、

彼女よ　彼女よ　私達姉妹が
かならずその「死」を生かして見せる

泣くな　歎くな　彼女よ
私達はその復讐を誓ふ——

讀みをへてかるきつかれに窓ごしの
コスモス見入る秋の日の午後

したゝかに雨にうたれし草花の
亂れし中に朝顔の咲く

うそ寒の大川端の雨の夜を
細々ひゞくチャルメラのふえ

堰きとめし水の一時にほとばしる
それにもにたる淋さのあり

秋の日記帳より

朝顔はもう枯れた。うす軟かな可愛いゝ花ももう一輪しか見られない。

軒に忘れられた風鈴の音がひんやりと心の中に冷くひゞく。

「秋だなあ……」としみ〴〵と思わせられる、秋！　そうだ秋だ！

着實の歩みに一歩づゝ力強く大地に踏みしめて固い心の地盤を作らなければならない今の自分にこの秋の靜けさこそどんなに力強いなぐさめになるだらう。

優しい愛撫の手で自然は傷ついた心をかくまでもいたはつてくれるでは無いか。

幾日も幾日も續く重苦しい憂鬱に、生きてゆくと言ふ事すら大きな負擔の樣に思はれるこの頃、進むべき一條の道さえ見わけがつかずたゞ空しく現實の苦しみに悶えるこの頃、ともすれば優しい友にささえそむき、たゞ一人孤獨に、とまつしぐらに進むこの心が自らを深い憂鬱に落すのではなからうか。

そうだ私は勇ましくこの苦境から立上らなくてはならない。明るく、自由に、正しく心の瞳を見開かなくてはならない。

秋！　親しみ深い靜かな秋、この時にこそ苦しみと悲しみに打ちのめされそうなこの弱さをすてゝ廣い自然の愛撫の中に深く堅實な自分自身を築かなくてはならないのだ。

それにはくずれる事の無い固い心の地盤を作るこそ最大な急務ではなからうか。

生きよう強く！みんな生きてゐるのだ。みんな働いてゐるのだ、みんな元氣ではないか、私も勇敢に心の活動をはじめよう、何も彼も朗らかな秋だもの……。

——植草歌音子——

宮崎まつ子（埼玉より）

號を重ねるごとに「婦人運動」の内容いよ〳〵旗色鮮かになつてゆくので力強く思ひます、私たちももつと讀者を增して誌友がみんな共力團結して、私たちプロレタリヤの前途を開拓してゆきたいといつも願ひそして苦しみつゝ社會の荒浪と戰つております。日下農村の小學校に勤めながら．さうした運動のために働かうと致しますとき隨分といろんな障害のみ多く樣々な苦るしみに直面させられますでもほんとうに正しい仕事を苦るしいからとて傍觀してゐられない心はどんなに苦るしくとも最後迄吾等の勝利の時を信じて戰ひぬくつもりです。

奥先生の御講演を我村の青年處女たちに聞かせて戴きたい、この願ひがもう長いこと續いてゐます。

原稿募集！

この會報はみなさんの共有です。思つたこと、感じたこと、知りたいこと、何でも大いに書いて送つて下さい。職業婦人の聲で本紙をうづめて下さい！

職業婦人の家

募金報告

(7)

宮保菊枝(五)、村上きよ子(五)・淺野しづ子(五)、澁谷多美子(一〇)、新井保とり(三)、本多咲子(五)・中野清子、上田光野(一〇)、長井かね子(七)、成田菜子(五)、山本よし子、林きく子、高橋とき子、高田あさ子、早木ときわ、木村節子、多留井光枝、永松ミサオ、岡田菜、池田菜、村松セキ、源三春、吉澤靜子、吉川菜(二)、牧野ふみ子、小山かず子、川邊、永田きみ子、北村うた子、飯田綾子、高木政子(二)、山縣イト、橋本、小栗武次、片山德齊、山田幸子、小栗玉吉、高倉富、小尾秋子、高倉房江、小栗しま、高倉安秋、森勝子、高倉登子、高倉順子、大月明、大月さわ、伊藤とう、高倉久治、森常次郎、高倉芳夫、生田花世(五)、伊藤八一、水谷みよ子、田中たつよ、水谷文作、馬場光三郎、木村幹、木村貞子、馬場とし子、植田けん、馬場きみ子、馬場コイ、同忠次郎、同たつ子、同ふじ代、柳しげよ(二半)、柳まつ子(二半)、森本うめ、兒玉キョウ、小椋花子、川尻すえ子、深田清子、清水富美子、小林みち子、長谷川菜、西川正雄、榊原うめ子、下田高等女學校職員有志(一〇)、下田小學校長(五)、下田小學校職員有志(五)、下田幼稚園(五)・稻生澤小學校職員有志(七)、下田看護婦會(一〇)、稻生澤村立野有志(三)、場芳枝(五)、福士くに子、阿部なり子・阿部きさ子、粒樂和子、倉田靜子、小早川すい子、

小山、吉村、谷井、新井、杉本、小山、小仲井、小阪、森川、東野、宮川、伊藤あい子、田部、西阪、渡邊すゞ、中久喜ふじ、中野喜美子、市川きく、社田、根本、川野、水村、鳥崎、清水、酒井、松岡、植村ゆき、佐藤さい、甲田秋子、立林末子、勝俣、太田、西野、遠藤とり、曾原襟平、石井とめ、中島ゆき子、小越、磯崎、宮阪、芝本、山田しん、倉川やす子・水谷、鈴木千代子、内山、八木、相澤、阪本・横塚、井原、丹波、内山、八木ムメ、笠倉つま、本條澤江・高橋君江・谷口ノ梅澤、天谷、高根、芝山、平田、美井、水谷、中村、染矢、植山、猪又初代、豊島幸子、阪東光子、今川清子、高橋緑・内山雪野、丸山ハツ、笠原靜江、鈴木美津江、鈴木イク、野中鉎・飯田咲子、松見わか、石井いと、鈴木とり、土居親代、淺井ふみ、小林せん、江澤千代、木村しげ、岩永ヒチ、大塚武子、井街千代、小林とし子、飯塚幸子、柏八重子、森多末枝、戸代谷華子、高橋、武藤、小松まつみ、西野

ゴシツプ

晝めし行脚 さみしがり屋の奥さんは獨りぼつちぢやあ、御飯がノドを通らないといふ厄介もの。

然し世の中は、この奥さんを引つぱり凧、あちらからもこちらからも「御飯に來ませんか」――ところで、晝飯行脚の意味はもうお分りでせう。この節はせつせとオフィス通ひあちこちで職業婦人諸氏と御會食です。

この間は△△局で田中さん持參のお赤飯に有りついて喜ぶまいことか。毎日のやうに曰く「今日も誰かんとこにお祭りの『こわめし』が無いかな。

園さんの洋裝 職業婦人社の書記長は園さんあちこちから持ち寄りのモザイツク洋裝。ブラウス――平田氏より。スカート――奧氏より。上衣――椎谷氏より。セッター――柳氏より。靴下――赤松氏より。靴――村山氏より。

どなたか、帽子の御追加はありませんか？

賣るわく／＼、細川さん ××生命の細川さんは大の消費組合黨。私たちは、いゝ加減雇主から搾取されてゐるのに、その上、ものを買ふたびに商人に搾られたんぢやあ立つ瀨がありませんわ。脱脂綿はいかゞ？ 毛糸は？ 足袋は？――

今に、職業婦人消費組合を作るんだ、と大變な意氣込みです。

女子、鈴木芳枝、吉村かよ、秋元なか、中原家田、遠藤、宇野、（以上百七名にて六圓四十五錢也）

吉田もと（五）、花田敬子、伊井よし、環とみえ（二）、佐々木こと、佐々木花子、和田芳子、松本こう、阿部ミツ子、井田誠子、中村たまえ、中村直一、中村八重子（五）、柳太市、大戸しげ子、儀元金之、雨田初子、坪川きん子、大文字泰（五）、福山俊子、福山ふく子、大河原やす子、上條たつ子、野田安子、中山敬子、川瀬ぶん、太田某、無名氏（五）、無名氏（五）無名氏（三）、笹本勝、佐久間篤、片山はつ子、佐山哲子、川尻愛子、大内まち子、永山義子、高原茂八、武田文子、石本こん、片山聡吾、高田島子（二）、橋本一、栗山あや子、竹内とと子、橋本二三子、佐野さゆり、赤塚澄子、稲本喜七・和田まち子、野間初五郎、越智ひで子、君川きみ、森とも子、柳瀬房枝、大江としえ、小林のぶ子、大内三津、織田まさよ、西畑秀、川瀬文代、大川智子、西川登美代、金井つる、大山ノブヨ、阿部ルリ子（二）、小川瑞子、栗原くり、黒川富子、滝川清子、島田菜（三）、菊地信三、菊池トク子、田島テイ、遠藤初子、矢澤達子、田邊律子、田邊勝子、川島延代、佐田貞子、松尾桃代、飛島タカ子、笠川梓、西尾松尾、西尾いく子、吉瀬キン、牧野貞子、奥田好子・（以下次號）

以上の諸氏。（便宜のため二圓以下の現金は袋の口數に直して記入しておきます）

次に二圓以上の現金を寄附せられた方々

一〇圓　小林ふさ氏
五圓　井上秀子氏
六圓　野田正吾氏
五圓　有働保子氏
五圓　泉和會
一〇〇圓　東京堂
一〇〇圓　東出作松氏
一〇〇圓　磯村市太郎氏
四二圓　日本動産火災社員
二五圓　東京職業婦人有志
七、六圓　武藏野病院看護婦一同
二五、四圓　四谷婦人會有志
五圓　森初枝、安藤喜代英、川北菊枝、柴川勝子氏連名
二〇、圓　武藏野婦人會
一〇〇圓　S M 氏
八圓　君山まち子氏
一〇〇圓　神田婦人會有志
一〇〇圓　横田糸子氏、斎藤とし子氏、柳原うめ子氏、穂積さい子氏、吉村花與氏、福田せい氏、香取いし氏、鍋島つや氏、金子喜美氏、伊東壽々氏、並喜多子氏、濱田喜美子、稲茂登たか子氏、三輪八三氏、吉村千代子氏、長谷川きく子氏、遠山とく子氏、大西しん子氏、藏園はる子氏、駒井ふみ子氏
二〇〇圓　横田弘二氏（以下次號）

現在高金三、〇二七圓三十五錢です。

「職業婦人の家」に含むもの

第一次工事の豫定費として金一萬圓を募つてゐます。木造二階建て、總工費七、〇〇〇圓、設備費三、〇〇〇圓也。一、娯樂休憩のための靜かで快よい部屋と相當の設備。二、圖書雜誌新聞などの閲覽室。三、婦人のために各種講習會、講座研究會、協議會等に使用する大廣間及び教室、小集會室。四、科學的に設備の整ひたる共同炊事場。五、及び同樣の共同洗濯場。六、簡易宿泊に必要な設備。七、食堂。八、應接室。九、事務室。十、消費組合の店舗。

即ち、職業婦人のよき教室であり、慰安室であり、休息所であるやうに運營する豫定でゐます。この建物が職業婦人及び一般婦人の生活の上に、いかに多くの潤ひと新しき光りを投ずるかは云ふまでもないと思ひます。

どうぞ、一人でも澤山のお方からこの「家」のために獻金して頂けます樣お力添下さい。私の微力と多忙のために募金が渉らぬのを恥しく思ひます。むめお記す

私のページ（むめお）

職業婦人相互のためいゝ機關紙が出來た。これから外出する時、つねに持つて出てみんなに分けやらうと思ふ……。

電車や圓太郎の中で、私たちの仲間である職業婦人と隣り合つたり向合つて座つたりして、お互ひに知らぬ顔の半兵衛さんを極めこんでゐる時ほど心淋しいものはありません。

やあ、お早やう、とか、お歸り、とか何とか、一くちアイサツをして笑ひ合ひたいものだと私はいつも思ふのです。

贊成の方は手をあげて下さい。行き合つたら、ものを云ふこと、笑ひを投げ合ふこと、必ず斷行！　ですよ。

×

堀切市長の請ひを入れて東京市に入られた賀川先生が、どこまでも此の協會を投げてわが邦の職業婦人問題の解決のために努力しやうと勵ましてゐて下さいます。

緊縮だ、失業だ、不景氣だと、まことにヒンシユクすべき聲を頻りに聞きます折柄、職業婦人問題はもつと充分に叫ばれ、考慮されなければならぬと思ひます。

今日、女に與へられてゐる職業はおほむね單調でつまりません。然し、其のつまらない職業生活の中で昏睡してしまつてはならないと思ひます。そのためによい友だちが必要であり、いゝクラブがいるのだと私は信じます。

さういふ意味であなたのいゝお友だちの一人に私も加へてほしいのです。そして、お互ひの親睦でいゝクラブを作り上げたいと思ふのです。



——街頭に働く私たちのなかま——
女車掌はみんな實に勇敢です

未だか〳〵と職業婦人協會の方たちに、逢ふ度に、催促されてゐ乍ら編輯が、おくれて、これは一に私の責任です。私としては、たとへ一言半句でも、協會の全部の方たちの顔ぶれを並べて、皆それ〴〵の「叫び」をききたい。盛りこませたいので、到底これ位の紙面では解りきつてはゐても、あれもこれもと頭を捻つては奥さんにお願ひするのだがまア〳〵我まんしてと、とう〳〵二頁を葉會報告にあげて了つた。殘念乍ら、然しこれは嬉しいこと、この葉會報告で全紙面が一つぱいになつちまつたつて、その時はその時、どん〳〵奥さんに紙面を殖して貰ひますから安心して下さい。

（國　和　枝）

婦人運動を讀め

ジヤズで亂舞してゐる世であるだけに、一層「婦人運動」のやうにまじめな主張を掲げて鬪うてゐる雜誌が注目され期待されて來るのだと思ひます。

十二月號はわが國の婦人運動全般に亙つての回顧錄がのります。25セン

昭和□年□月□日第三種郵便物認可　昭和四年十二月一日發行「婦人運動」第七巻□□號（附錄）編輯發行兼印刷人　東京市牛込區本村町四（職業婦人社）奥むめお

復刻版 婦人運動 第3回配本（第11巻～第15巻）

1990年12月25日 発行

本体揃価格 50,000円

発行者 船橋 治

発行所 不二出版㈱

東京都文京区向丘1-2-12

〒113 ☎03(812)4433

印刷所 三進社

製本所 吉田製本工房

中性紙使用

乱丁・落丁はお取替え